

2020 年度
学修要項(シラバス Syllabus)

ICM 国際メディカル専門学校
看護学科

看護学科 カリキュラム表

区分	教育内容	科 目	必修 単位	時 間 数			1年次		2年次		3年次		実務経験教員等による授業科目			
				講義	実習	合計	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	2020年度	単位数
基礎分野	科学的思考の 基盤	論理学	1	30		30	30									
		物理学	1	30		30	30									
		化学	1	30		30	30									
		情報科学	1	30		30	30									
	人間と人間生活 の 理解	心理学	1	30		30	30									
		人間関係論	1	30		30		30								
		社会学	1	30		30		30								
		教育学	1	30		30			30							
		倫理学	1	30		30				30						
		英語	2	60		60	30	30								
中国語		1	30		30			30								
保健体育		1	30		30		30									
小 計			13	390	0	390	180	120	60	30	0	0		0		
専門基礎分野	人体の構造と 機能	解剖生理学Ⅰ	1	30		30	30							○	1	
		解剖生理学Ⅱ	1	30		30	30							○	1	
		解剖生理学Ⅲ	1	30		30	30							○	1	
		栄養学	1	30		30			30					○	1	
		生化学	1	30		30		30						○	1	
	疾病の成り立ち と回復の促進	薬理学	1	30		30		30						○	1	
		微生物学	1	30		30	30							○	1	
		病理学概論	1	15		15	15							○	1	
		病態学Ⅰ	1	15		15		15						○	1	
		病態学Ⅱ	1	30		30		30						○	1	
		病態学Ⅲ	1	30		30		30						○	1	
		病態学Ⅳ	1	15		15		15						○	1	
		病態学Ⅴ	1	30		30		30						○	1	
		病態学Ⅵ	1	15		15		15						○	1	
		病態学Ⅶ	1	30		30		30						○	1	
	健康支援と 社会保障制度	現代医療論	1	30		30					30				○	1
		公衆衛生学	2	30		30		30			30				○	2
		社会福祉	2	30		30		30							○	2
		関係法規	1	30		30		30			30				○	1
		小 計			21	510	0	510	135	255	30	90	0	0		21
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30		30	30							○	1	
		看護基本技術Ⅰ	1	30		30	30							○	1	
		看護基本技術Ⅱ	1	30		30		30						○	1	
		生活援助技術Ⅰ	1	30		30	30							○	1	
		生活援助技術Ⅱ	1	30		30	30							○	1	
		生活援助技術Ⅲ	1	30		30	30							○	1	
		診療の補助技術Ⅰ	1	30		30					30			○	1	
		診療の補助技術Ⅱ	1	30		30			30					○	1	
		看護過程	1	30		30		30						○	1	
		臨床看護総論	1	30		30		30						○	1	
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1		45	45		45						○	1	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		90	90				90				○	2	
		専門分野Ⅰ 小計			13	300	135	435	150	135	30	120	0	0		13
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30		30		30						○	1	
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30		30			30					○	1	
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30		30				30				○	1	
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30		30			30					○	1	
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30		30					30			○	1	
		成人看護学方法論Ⅴ	1	30		30			30					○	1	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		30		30						○	1	
		老年看護学方法論Ⅰ	2	45		45			45					○	2	
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30		30				30				○	1	
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		30		30						○	1	
		小児看護学方法論Ⅰ	2	45		45			45					○	2	
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30		30				30				○	1	
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		30			30					○	1	
		母性看護学方法論Ⅰ	2	45		45			45					○	2	
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30		30				30				○	1	
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		30		30						○	1	
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30		30			30					○	1	
		精神看護学方法論Ⅱ	2	45		45				45				○	2	
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2		90	90						90			○	2
		成人看護学実習Ⅱ	2		90	90						90			○	2
		成人看護学実習Ⅲ	2		90	90						90			○	2
		老年看護学実習Ⅰ	2		90	90				90					○	2
		老年看護学実習Ⅱ	2		90	90					90				○	2
		小児看護学実習	2		90	90					90				○	2
		母性看護学実習	2		90	90					90				○	2
		精神看護学実習	2		90	90					90				○	2
専門分野Ⅱ 小計			38	600	720	1320	0	120	285	285	630			38		
統合分野	在宅看護論	在宅看護論概論	1	30		30			30					○	1	
		在宅看護論方法論Ⅰ	1	30		30			30					○	1	
		在宅看護論方法論Ⅱ	2	45		45				45				○	2	
	看護の統合と実 践	臨床看護の実践	1	30		30					30			○	1	
		看護管理	1	30		30			30					○	1	
		医療安全	1	30		30				30				○	1	
		看護研究(ケーススタディ)	1	30		30					30			○	1	
	臨地実習	在宅看護論実習	2		90	90						90			○	2
		統合実習	2		90	90							90		○	2
		統合分野 小計			12	225	180	405	0	0	90	75	240			12
総合計			97	2025	1035	3,060	465	630	495	600	870		66	84		

授業科目 論理学

区分：基礎分野（科学的思考の基盤）

【科目担当者】 栗原 隆		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 弁証法という論理が、私たちの人生の目標を実現する論理であることを理解するとともに、どうすべきかわからないような葛藤状況においても。私たちが生きていく難局を乗り切る論理を身に着けることを目指す。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	ヘーゲルとは誰か？	講義	栗原隆
2	「体系」とは何か？	講義	栗原隆
3	希望のない明日よりも絶望の明日を	講義	栗原隆
4	反省だけでは循環に陥る	講義	栗原隆
5	哲学と経験知の違い	講義	栗原隆
6	悟性と呼ばれる常識は固定的で偏頗な知ではない	講義	栗原隆
7	限界ある認識は自らを否定する	講義	栗原隆
8	「ある」「ない」「なる」の弁証法	講義	栗原隆
9	規定的否定は肯定的なものへ向けた否定である	講義	栗原隆
10	「認容・譲歩」の文脈と立論の方法	講義	栗原隆
11	懐疑論と弁証法	講義	栗原隆
12	自らの確実性を否定する懐疑論	講義	栗原隆
13	日常を疑うことではなく、絶望することに見定められた哲学	講義	栗原隆
14	先行きを見越した知である思弁	講義	栗原隆
15	生きてゆくことを学ぶための弁証法	講義	栗原隆
【使用教科書】 栗原隆（著）『ヘーゲル——生きてゆく力としての弁証法』（NHK 出版）			
【評価方法】 期末試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 物理学

区分：基礎分野（科学的思考の基盤）

【科目担当者】 姫野 美保		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 医療や看護を行う行為としての原理を学び、また科学的な思考を訓練する一つの方法としての物理学的知識を習得する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	物理量と単位系	講義	姫野 美保
2・3	移動動作に必要な力の加減	講義	姫野 美保
4	物と姿勢の安定性 ー重力と重心ー	講義	姫野 美保
5	力のモーメントと「てこ」	講義	姫野 美保
6	人体における力のモーメント	講義	姫野 美保
7	仕事とエネルギー	講義	姫野 美保
8	摩擦力	講義	姫野 美保
9	圧力の原理	講義	姫野 美保
10・11	流体の圧力	講義	姫野 美保
12	血圧に関する知識	講義	姫野 美保
13	看護における電気の知識	講義	姫野 美保
14	放射線のもつ特性と基礎知識	講義	姫野 美保
15	まとめ	講義	姫野 美保
【使用教科書】 系統看護学講座基礎1 物理学（医学書院） ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー（gakken）			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 化 学

区分：基礎分野（科学的思考の基盤）

【科目担当者】 井山 弘幸		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 3 0 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 生化学の手法が生命現象の解明に欠かせなくなった昨今、医療に従事する人には一定レベルの化学的理解と実践力が求められるようになった。ミスが許されない医療の現場では、生物学や化学の知識で裏打ちされた自信を身に付け、躊躇することなく業務に集中できるものをしっかりと会得してもらいたい。			
【授業計画】			
回数	内 容	授業形態	担 当
1	第 1 章看護師に求められる心得とは。水の物理・化学的性質	講義	井山弘幸
2	第 2 章化学の単位（量と単位）、元素、周期表、元素の分類、物質の状態）	講義	井山弘幸
3	第 3 章物質の状態（融点・沸点、気体の性質）	講義	井山弘幸
4	第 4 章気体の性質（法則：ボイル、シャルル、気体の状態方程式）	講義	井山弘幸
5	第 5 章液体・溶液の性質（濃度、沸点、浸透圧、コロイド溶液）	講義	井山弘幸
6	第 6 章化学反応（反応式の基本法則、酸化・還元反応）金属のイオン化傾向	講義	井山弘幸
7	第 7 章反応速度（パソコン実習）,作表操作等	講義	井山弘幸
8	第 8 章化学平衡（酸と塩基、水素イオン濃度と pH、中和反応、塩の加水分解）	講義	井山弘幸
9	第 9 章原子の構造と化学結合（イオン結合、共有結合）	講義	井山弘幸
10	第 10 章無機化学（周期律表）	講義	井山弘幸
11	第 11 章有機化学.	講義	井山弘幸
12	第 12 章 章高分子化学（生体を構成する物質）	講義	井山弘幸
13	第 13 章 糖質（炭水化物）	講義	井山弘幸
14	第 14 章 タンパク質	講義	井山弘幸
15	第 15 章 脂質	講義	井山弘幸
【使用教科書】 系統看護学講座 基礎分野 化学（医学書院）			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 情報科学

区分：基礎分野（科学的思考の基盤）

【科目担当者】 大河原 崇文 泉 綾		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前・後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 パソコンの端末から発信される保健・医療データが、検査・診断データとリンクして、迅速に正確な情報を産み出し業務を円滑に進めているのが実態である。情報技術の基本的事項を理解し、コンピュータを操作できる実践力を高める。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	情報の定義と特徴	講義	大河原崇文
2	情報化社会	講義	大河原崇文
3	保健医療と情報	講義	大河原崇文
4	コンピューターリテラシーとセキュリティ	講義	大河原崇文
5	個人情報の保護	講義	大河原崇文
6	文字情報の整理	講義・演習	大河原崇文
7	文字情報の整理	講義・演習	大河原崇文
8	文字情報の整理	講義・演習	大河原崇文
9	医療における情報システム① 病院情報システム	講義・演習	泉 綾
10	医療における情報システム② 電子カルテ	講義・演習	泉 綾
11	医療における情報システム③ 電子カルテ	講義・演習	泉 綾
12	Excel による統計解析	講義・演習	大河原崇文
13	Excel による統計解析	講義・演習	大河原崇文
14	Excel による統計解析	講義・演習	大河原崇文
15	まとめ	講義	大河原崇文
【使用教科書】 系統看護学講座 看護情報学（医学書院）			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 心理学

区分：基礎分野（人間と人間生活の理解）

【科目担当者】 山之内 則雄		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 人間の心理を理解するための基礎を学習し、医療・看護の場面においての人間理解の展開能力を養う。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	心理学の問題	講義	山之内則雄
2	知覚の心理	講義	山之内則雄
3	記憶の心理	講義	山之内則雄
4	思考・想像・言語の心理	講義	山之内則雄
5	知能の心理と知能検査	講義	山之内則雄
6	学習の心理	講義	山之内則雄
7	適応の心理	講義	山之内則雄
8	性格の心理と性格検査	講義	山之内則雄
9	集団の心理	講義	山之内則雄
10・11	発達の心理	講義	山之内則雄
12・13	カウンセリング	講義	山之内則雄
14	医療と心理学	講義	山之内則雄
15	まとめ	講義	山之内則雄
【使用教科書】 心理学（東京大学出版会）			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 人間関係論

区分：基礎分野（人間と人間生活の理解）

【科目担当者】 太田 朋子		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 人と人のかかわりの中で暮らし、成長する存在として人間を捉え、人間関係を円滑に保つ必要性和方法について理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	人間存在と人間関係	講義	大田 朋子
2	社会相互作用と社会的役割	講義	大田 朋子
3・4	コミュニケーションとは	講義	大田 朋子
5・6	人間関係の研究と技法	講義	大田 朋子
7	保健医療チームの人間関係	講義	大田 朋子
8・9	闘病生活を支える人間関係	講義	大田 朋子
10・11	家族の人間関係と看護者のかかわり	講義	大田 朋子
12	ターミナルケアにおけるコミュニケーション	講義	大田 朋子
13	ソーシャルサポートネットワーク	講義	大田 朋子
14	ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係	講義	大田 朋子
15	まとめ	講義	大田 朋子
【使用教科書】 系統看護学講座 別巻 1 4 人間関係論 （医学書院）			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 教育学

区分：基礎分野（人間と人間生活の理解）

【科目担当】 山田 容子		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【開講時期】 2 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 教育学は、いかにして教えるかのみならず人間を理解するための研究領域の一つでもある。人間はいかにして考えまた行動するものであるのかを教育学の諸領域において学び、そのことを通して人間についてさまざまな見方・考え方を形成していくことを目標とする。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	人間の成長	講義・演習	山田 容子
2	人間形成と教育	講義・演習	山田 容子
3	家庭教育	講義・演習	山田 容子
4・5	生涯学習	講義・演習	山田 容子
6・7	学校教育制度	講義・演習	山田 容子
8	教育目的	講義・演習	山田 容子
9・10	学習指導	講義・演習	山田 容子
11	生活指導	講義・演習	山田 容子
12	教育評価	講義・演習	山田 容子
13・14	心身障害者の教育	講義・演習	山田 容子
15	これまでのまとめ	講義	山田 容子
【使用教科書】 系統看護学講座 基礎 7 教育学（医学書院） そのつどプリントを配布			
【評価方法】 課題提出状況 50%、授業態度 40%、出席 10%を総合的に評価する 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 社会学

区分：基礎分野（人間と人間生活の理解）

【科目担当者】 山之内 則雄		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 社会とは何か、集団とは何か、家族とは何か、またそれらの構造と機能はどのようなものを学習し、地域と制度のかかわりを理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	医療という社会行為	講義	山之内則雄
2	社会と集団	講義	山之内則雄
3	社会構造と集・組織・ネットワーク	講義	山之内則雄
4	家族、家族システム理論	講義	山之内則雄
5	地域社会と都市化	講義	山之内則雄
6	看護が展開される場面	講義	山之内則雄
7	看護をとり包む社会制度	講義	山之内則雄
8	社会保険制度	講義	山之内則雄
9	看護という仕事	講義	山之内則雄
10	医師	講義	山之内則雄
11	雇われて働く、性・結婚・親子	講義	山之内則雄
12	社会的分断・障壁	講義	山之内則雄
13	現代社会	講義	山之内則雄
14	社会調査	講義	山之内則雄
15	まとめ	講義	山之内則雄
【使用教科書】 現代社会学（ミネルヴァ書房）			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 倫理学

区分：基礎分野（人間と人間生活の理解）

【科目担当】 栗原 隆 内藤 綾子		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【開講時期】 2 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 倫理的な葛藤状況に際して、事例に対応することを覚えるのではなく、いかに対応すべきかを考える判断力を、身に着けることを目指す。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	生命倫理とは何か？	講義	栗原 隆
2	重症障害新生児の治療停止を巡る問題	講義	栗原 隆
3	安楽死と終末期医療	講義	栗原 隆
4	減数手術は許されるか？	講義	栗原 隆
5	AID と精子バンク	講義	栗原 隆
6	代理母は許されるか？	講義	栗原 隆
7	ヒト・クローンを作ることは許されるか？	講義	栗原 隆
8	より高次のケアとは何か？	講義	栗原 隆
9	出生前診断と選択的中絶	講義	栗原 隆
10	私たちは生まれてくる子どもに何を望むのか？	講義	栗原 隆
11	倫理の基礎	講義	内藤 綾子
12	看護者の倫理	講義	内藤 綾子
13	倫理問題への取り組み方①	講義	内藤 綾子
14	倫理問題への取り組み方②	グループワーク	内藤 綾子
15	倫理問題への取り組み方③	グループワーク	内藤 綾子
【使用教科書】 小林亜津子（著）『看護のための生命倫理』（ナカニシヤ出版） 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 看護学概論（医学書院） 看護者の基本的責務・定義・概念/基本法/倫理（日本看護協会出版会）			
【評価方法】 客観試験 90% 授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 英語

区分：基礎分野（科学的思考の基盤）

【科目担当者】 福原 純子		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 2	【時間数】 60 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前・後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 看護に関する題材をもとに学び、各自の英語のスキルアップを目指す。 医療現場で英語を使って患者とコミュニケーションが取れることを目標とする。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	オリエンテーション、英語で自己紹介	講義	福原純子
2	相手を知る質問、丁寧な尋ね方	講義	福原純子
3	病院受付での英語、初診時	講義	福原純子
4・5	診療科名、病院内の職業	講義	福原純子
6	診療申込書	講義	福原純子
7・8	病院案内、備品の説明	講義	福原純子
9	症状を尋ねる（風邪、消化器系）	講義	福原純子
10・11	症状と兆候の表現	講義	福原純子
12	症状を尋ねる（痛み・その他の症状）	講義	福原純子
13・14	人体外部の英語・人体内部の英語	講義	福原純子
15	病歴、家族歴を尋ねる	講義	福原純子
16・17	主な病気の名称・内科予診票	講義	福原純子
18・19	薬の種類・頻度	講義	福原純子
20	予約の受け方・検査の名称	講義	福原純子
21・22	検査の指示、検査の英語表現	講義	福原純子
23・24	産婦人科外来での英語表現	講義	福原純子
25・26	予防接種の説明をする	講義	福原純子
27	小児科外来での英語表現	講義	福原純子
28	手術の英語表現	講義	福原純子
29	術後、日常看護の英語表現	講義	福原純子
30	まとめ	講義	福原純子
【使用教科書】 クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院）			
【評価方法】 英語面接試験 50%、小テスト 40%、出席状況・授業態度 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 中国語

区分：基礎分野（人間と人間生活の理解）

【科目担当者】 張馬梅蕾 孫 犁冰	【実務経験の有無および経歴】		
【単位数】 1	【時間数】 30時間	【対象学年】 2年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 中国語の基本的な聞く・話す・書く・訳す等の能力を身につけ患者の情報を得るための臨床会話を習得する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	中国語の基礎①	講義	張馬梅蕾
2	中国語の基礎②	講義	張馬梅蕾
3	中国語の基礎③	講義	張馬梅蕾
4	精読①	講義	張馬梅蕾
5	精読②	講義	張馬梅蕾
6	精読③	講義	張馬梅蕾
7	精読④	講義	張馬梅蕾
8	精読⑤	講義	張馬梅蕾
9	臨床会話①	講義	孫 犁冰
10	臨床会話②	講義	孫 犁冰
11	臨床会話③	講義	孫 犁冰
12	臨床会話④	講義	孫 犁冰
13	臨床会話⑤	講義	孫 犁冰
14	臨床会話⑥	講義	孫 犁冰
15	まとめ	講義	孫 犁冰
【使用教科書】 なし（講師より資料配布）			
【評価方法】 客観試験 80%、授業態度・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 保健体育

区分：基礎分野（人間と人間生活の理解）

【科目担当者】 高田 大輔		【実務経験の有無および経歴】	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 看護師としての QOL を高めるために必要な、1. 自らの心身を健康に保つ、2. 運動による健康の保持増進の必要性を理解する、3. コミュニケーション能力を高める、についてスポーツの実践を通して学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	オリエンテーション、体ほぐしの運動	実技	高田大輔
2	体ほぐしの運動、コミュニティスポーツの実践	実技	高田大輔
3	ストレッチ、バドミントン（基本と練習方法の理解）	実技	高田大輔
4	ストレッチ、バドミントン（ミニゲーム）	実技	高田大輔
5	ストレッチ、バドミントン（チーム練習、ミニゲーム）	実技	高田大輔
6	ストレッチ、バドミントン（チーム練習、ミニゲーム）	実技	高田大輔
7	ストレッチ、バドミントン（リーグ戦）	実技	高田大輔
8	ストレッチ、バドミントン（リーグ戦）	実技	高田大輔
9	ストレッチ、バスケットボール（基本と練習方法の理解）	実技	高田大輔
10	ストレッチ、バスケットボール（ミニゲーム）	実技	高田大輔
11	ストレッチ、バスケットボール（チーム練習、ミニゲーム）	実技	高田大輔
12	ストレッチ、バスケットボール（チーム練習、ミニゲーム）	実技	高田大輔
13	ストレッチ、バスケットボール（リーグ戦）	実技	高田大輔
14	ストレッチ、バスケットボール（リーグ戦）	実技	高田大輔
15	健康・体力と運動、生涯スポーツについて、まとめ	講義	高田大輔
【使用教科書】 なし			
【評価方法】 実践行動（出席状況含む）80%、課題レポート（最終講義時）20%、 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 解剖生理学 I

区分：専門基礎分野（人体の構造と機能）

【科目担当者】 河内 裕		【実務経験の有無および経歴】 有（医師として医療現場に３年間従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 人体を構成する各器官・組織の解剖（構造）と生理（機能）を理解する。 人体の発生と構成、筋・骨格系、神経系、皮膚、感覚器の構造と生理機能について理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	解剖生理とは	講義	河内 裕
2	人体の基本構造	講義	河内 裕
3～6	細胞と組織と器官	講義	河内 裕
7～10	神経系	講義	河内 裕
11, 12	感覚器	講義	河内 裕
13	皮膚	講義	河内 裕
14	生体の防御機構	講義	河内 裕
15	まとめ	講義	河内 裕
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 解剖生理学Ⅱ

区分：専門基礎分野（人体の構造と機能）

【科目担当者】 山本 格		【実務経験の有無および経歴】 有（医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 人体を構成する各器官・組織の解剖（構造）と生理（機能）を理解する。 呼吸、循環、内分泌・代謝、遺伝、骨格の構造と生理機能について理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1～4	呼吸器系	講義	山本 格
5～8	循環器系	講義	山本 格
9～12	内分泌・代謝系	講義	山本 格
13～14	骨格系	講義	山本 格
15	まとめ	講義	山本 格
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・授業態度・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 解剖生理学Ⅲ

区分：専門基礎分野（人体の構造と機能）

【科目担当者】 折笠 道昭		【実務経験の有無および経歴】 有（獣医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 消化器系，泌尿器系，生殖器系の解剖・生理を系統的に学び、看護学を修得するための基礎を構築する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	解剖生理学の基礎知識	講義	折笠道昭
2	消化器系Ⅰ 口腔・咽頭の構造と機能	講義	折笠道昭
3	消化器系Ⅱ 胃の構造と機能	講義	折笠道昭
4	消化器系Ⅲ 小腸と大腸の構造と機能	講義	折笠道昭
5	消化器系Ⅳ 肝臓の構造と機能	講義	折笠道昭
6	消化器系Ⅴ 膵臓の構造と機能	講義	折笠道昭
7	泌尿器系Ⅰ 腎臓と体液調整	講義	折笠道昭
8	泌尿器系Ⅱ 糸球体の構造と機能	講義	折笠道昭
9	泌尿器系Ⅲ 尿細管の構造と機能	講義	折笠道昭
10	泌尿器系Ⅳ 傍糸球体装置と血圧調整	講義	折笠道昭
11	泌尿器系Ⅴ 膀胱・尿道の構造と機能，尿の性状	講義	折笠道昭
12	生殖器系Ⅰ 男性生殖器の構造と機能	講義	折笠道昭
13	生殖器系Ⅱ 女性生殖器の構造と機能	講義	折笠道昭
14	生殖器系Ⅲ 性周期とホルモン	講義	折笠道昭
15	生殖器系Ⅳ 受精と胎児の発生	講義	折笠道昭
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・授業態度・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 栄養学

区分：専門基礎分野（人体の構造と機能）

【科目担当者】 牧野 令子		【実務経験の有無および経歴】 有（管理栄養士として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 生化学の知識をもとに身体を作るための栄養と健康を回復するための食事について学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	QOL と食生活	講義	牧野令子
2	ライフサイクルと栄養	講義	牧野令子
3	食べる行動から始まる	講義	牧野令子
4	どれだけ食べたらよい？	講義	牧野令子
5	取り込まれた食物のゆくえ	講義	牧野令子
6	疾病と栄養①	講義	牧野令子
7	疾病と栄養②	講義	牧野令子
8	疾病と栄養③	講義	牧野令子
9	疾病と栄養④	講義	牧野令子
10	疾病と栄養⑤	講義	牧野令子
11	疾病と栄養⑥	講義	牧野令子
12	疾病と栄養⑦	講義	牧野令子
13	食生活の課題	講義	牧野令子
14	食生活と看護の関わり	講義	牧野令子
15	発表 まとめ	講義	牧野令子
【使用教科書】 看護栄養学 第3版 （医歯薬出版株式会社） 糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版（日本糖尿病協会）			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 生化学

区分：専門基礎分野（人体の構造と機能）

【科目担当者】 折笠 道昭		【実務経験の有無および経歴】 有（獣医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 生体を構成する物質の種類と性状・代謝を学び、疾患との関連を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	生化学の基礎知識	講義	折笠道昭
2	糖質の種類と性質	講義	折笠道昭
3	脂質の種類と性質	講義	折笠道昭
4	タンパク質の種類と性質	講義	折笠道昭
5	核酸の構造と機能、水・無機質と酸塩基平衡	講義	折笠道昭
6	ホルモン・生理活性物質の種類と機能	講義	折笠道昭
7	酵素とビタミンの役割	講義	折笠道昭
8	糖質代謝の機序	講義	折笠道昭
9	糖質代謝異常と疾患	講義	折笠道昭
10	脂質代謝の機序	講義	折笠道昭
11	脂質代謝異常と疾患	講義	折笠道昭
12	タンパク質代謝の機序	講義	折笠道昭
13	タンパク質代謝と疾患	講義	折笠道昭
14	核酸代謝・ポルフィリン代謝と疾患	講義	折笠道昭
15	遺伝医学と先天性代謝異常	講義	折笠道昭
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 医学書院			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・授業態度・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 薬理学

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】 折笠 道昭	【実務経験の有無および経歴】 有（獣医師として医療現場に従事）		
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 薬理学の基礎理論を学び、臨床で使用する個々の薬物の作用機序、使用の際の注意点、副作用について理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	薬理学の基礎Ⅰ 受容体とリガンド	講義	折笠道昭
2	薬理学の基礎Ⅱ 薬物の体内挙動と相互作用	講義	折笠道昭
3	薬理学の基礎Ⅲ 薬物の主作用と副作用、薬物と法律	講義	折笠道昭
4	抗感染症薬Ⅰ 抗菌薬の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
5	抗感染症薬Ⅱ 抗真菌・ウイルス薬・結核薬の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
6	抗がん剤の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
7	免疫治療薬と抗アレルギー薬の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
8	末梢神経作用薬の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
9	中枢神経作用薬の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
10	心臓・血管系作用薬Ⅰ 抗高血圧薬の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
11	心臓・血管系作用薬Ⅱ 狭心症、不整脈治療薬の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
12	呼吸器、消化器、生殖器に作用する薬物の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
13	ホルモンとホルモン拮抗薬の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
14	皮膚科、眼科で用いる薬物の種類と薬理作用	講義	折笠道昭
15	漢方薬の基礎知識、救急で使用する薬物、輸液の原理と適応	講義	折笠道昭
【使用教科書】 医学書院 系統看護学講座 薬理学			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・授業態度・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 微生物学

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】 折笠 道昭		【実務経験の有無および経歴】 有（獣医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 病原微生物の種類・性質と生体の防御機構を学び、感染理論と病態を理解する。また、実践的感染防御法を学ぶことで、看護学の基礎を修得する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	微生物学の基礎知識	講義	折笠道昭
2	病原細菌の分類と性質	講義	折笠道昭
3	病原ウイルスの分類と性質	講義	折笠道昭
4	病原真菌・原虫の分類と性質	講義	折笠道昭
5	感染と生体防除機構Ⅰ	講義	折笠道昭
6	感染と生体防除機構Ⅱ	講義	折笠道昭
7	滅菌と消毒	講義	折笠道昭
8	感染症の検査と治療	講義	折笠道昭
9	グラム陽性菌と病原性	講義	折笠道昭
10	グラム陰性菌と病原性	講義	折笠道昭
11	カンピロバクター,スピロヘータ,マイコプラズマ,リケッチア,真菌,原虫感染と特徴	講義	折笠道昭
12	抗酸菌の病原性と免疫反応	講義	折笠道昭
13	DNA ウイルスと感染症	講義	折笠道昭
14	RNA ウイルスと感染症	講義	折笠道昭
15	肝炎ウイルスの分類と病態	講義	折笠道昭
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・授業態度・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 病理学概論

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】 高村 佳緒里		【実務経験の有無および経歴】 有（医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 1 5 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 人体の細胞と組織を正常からみた病的現象の成因・発生机序・経路について、看護活動において起こる病理的機序と関連づけて理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	病理学の概要	講義	高村佳緒里
2	病理学と医療及び看護とのかかわり	講義	高村佳緒里
3	細胞と組織の基本構造	講義	高村佳緒里
4	細胞の構造と機能	講義	高村佳緒里
5	細胞、組織の修復と再生	講義	高村佳緒里
6	炎症と腫瘍	講義	高村佳緒里
7	先天異常の発生机序、原因	講義	高村佳緒里
8	まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 医学書院			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 病態学Ⅰ

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】 谷 優佑		【実務経験の有無および経歴】 有（医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 1 5 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 呼吸器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	呼吸器の構造と機能	講義	谷優佑
2	肺腫瘍	講義	谷優佑
3	感染性呼吸器疾患	講義	谷優佑
4	間質性肺炎	講義	谷優佑
5	気道疾患と肺気腫	講義	谷優佑
6	呼吸不全，呼吸調節障害，肺塞栓，胸膜・縦隔疾患	講義	谷優佑
7	呼吸器症状と鑑別診断	講義	谷優佑
8	まとめ	講義	谷優佑
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 病態学Ⅱ

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】 河内 裕		【実務経験の有無および経歴】 有（医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 循環器、血液リンパ系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解できる。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	狭心症	講義	河内 裕
2	心筋梗塞	講義	河内 裕
3	心不全	講義	河内 裕
4	血圧異常	講義	河内 裕
5	不整脈	講義	河内 裕
6	弁膜症	講義	河内 裕
7	心膜炎、心筋疾患	講義	河内 裕
8	先天性疾患	講義	河内 裕
9	動脈系疾患	講義	河内 裕
10	赤血球系の疾患	講義	河内 裕
11	白血球系の疾患	講義	河内 裕
12	リンパ網内系疾患	講義	河内 裕
13	異常タンパク血症	講義	河内 裕
14	出血性疾患	講義	河内 裕
15	まとめ	講義	河内 裕
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院			
【評価方法】 客観試験 80%、授業態度・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 病態学Ⅲ

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】		【実務経験の有無および経歴】	
飯合 恒夫		有（医師として医療現場に従事）	
高村 佳緒里		有（医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】			
消化器系、内分泌、栄養代謝の疾患、膠原病の患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	消化器系疾患の概要	講義	飯合恒夫
2	食道の疾患	講義	飯合恒夫
3	胃・十二指腸の疾患	講義	飯合恒夫
4	腸および腹膜疾患	講義	飯合恒夫
5	肝臓・胆のう疾患	講義	飯合恒夫
6	膵臓の疾患	講義	飯合恒夫
7	視床下部、下垂体前葉系疾患	講義	高村佳緒里
8	視床下部、下垂体後葉系疾患	講義	高村佳緒里
9	副甲状腺疾患	講義	高村佳緒里
10	副腎疾患	講義	高村佳緒里
11	性腺疾患	講義	高村佳緒里
12	代謝疾患	講義	高村佳緒里
13	糖尿病	講義	高村佳緒里
14	膠原病	講義	高村佳緒里
15	まとめ	講義	高村佳緒里
【使用教科書】			
系統看護学講座 専門基礎 9 成人看護学[5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 10 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 15 成人看護学[11] アレルギー 膠原病患者 医学書院			
【評価方法】			
客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 病態学Ⅳ

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】 鷲山 和雄		【実務経験の有無および経歴】 有（医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 1 5 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 脳神経系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	脳血管障害	講義	鷲山 和雄
2	脳腫瘍	講義	鷲山 和雄
3	脱髄疾患・頭部外傷	講義	鷲山 和雄
4	水頭症・脊髄疾患・脳炎	講義	鷲山 和雄
5	脳・神経の変性疾患、その他の神経系感染症	講義	鷲山 和雄
6	末梢神経疾患・神経、筋疾患	講義	鷲山 和雄
7	てんかん・中毒	講義	鷲山 和雄
8	まとめ	講義	鷲山 和雄
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・授業態度・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 病態学Ⅴ

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】 山本 格 高村 佳緒里 志村 英樹	【実務経験の有無および経歴】 有（医師として医療現場に従事） 有（医師として医療現場に従事） 有（医師として医療現場に従事）		
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 腎泌尿器系、女性生殖系、感覚器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	腎不全とは	講義	山本 格
2	原発性糸球体腎炎	講義	山本 格
3	全身疾患による腎障害	講義	山本 格
4	腎血管性病変、非特異性感染症	講義	山本 格
5	尿路結石、尿路の通過障害	講義	山本 格
6	尿路結石症	講義	山本 格
7	尿路、性器の腫瘍	講義	山本 格
8	腎まとめ	講義	山本 格
9	子宮の疾患、卵巣の疾患膣疾患	講義	高村佳緒里
10	感染症疾患性感染症、外陰の疾患	講義	高村佳緒里
11	月経異常、不妊症	講義	高村佳緒里
12	乳腺疾患	講義	高村佳緒里
13	表皮性皮膚疾患、真皮・皮下脂肪組織および皮膚付属器疾患	講義	志村英樹
14	脈絡系の皮膚疾患、物理・化学的皮膚障害	講義	志村英樹
15	腫瘍および色素異常症、微生物・動物が関与する疾患	講義	志村英樹
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎 12 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器疾患患者の看護 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 13 成人看護学〔9〕 女性生殖器疾患患者の看護 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 16 成人看護学〔12〕 皮膚疾患患者の看護 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 15 成人看護学〔11〕 アレルギー疾患患者の看護、膠原病患者の看護、感染症患者の看護 医学書院			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 病態学Ⅵ

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】		【実務経験の有無および経歴】	
山本 智章		有（医師として医療現場に従事）	
生越 章		有（医師として医療現場に従事）	
澤上 公彦		有（医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 1 5 時間	【対象学年】 1 年次
【開講時期】 後期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】			
運動器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	骨折・脱臼・捻挫・打撲（整形外科一般）	講義	生越 章
2	骨腫瘍、骨・関節の炎症性疾患	講義	生越 章
3	脊椎の疾患①	講義	澤上公彦
4	脊椎の疾患②	講義	澤上公彦
5	上肢および上肢帯の疾患①	講義	澤上公彦
6	下肢および下肢帯の疾患②	講義	山本智章
7	骨粗鬆症	講義	山本智章
8	まとめ	講義	山本智章
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用教科書】			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 医学書院			
【評価方法】			
客観試験 90%、授業態度・出席状況 10%			
成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 病態学Ⅶ

区分：専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の促進）

【科目担当者】 佐藤 美恵子 土屋乃理子 松木 麻子 眼科医師		【実務経験の有無および経歴】 有（医師として医療現場に従事） 有（医師として医療現場に従事） 有（歯科医師として医療現場に従事） 有（医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 感覚器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	眼の構造と機能	講義	眼科医師
2	症状とその病態生理	講義	眼科医師
3	検査と治療	講義	佐藤 美恵子
4	疾患の理解（1）	講義	佐藤 美恵子
5	疾患の理解（2）	講義	佐藤 美恵子
6	齲蝕、歯の構造	講義	松木 麻子
7	歯周疾患	講義	松木 麻子
8	歯源性腫瘍	講義	松木 麻子
9	悪性腫瘍、神経	講義	松木 麻子
10	耳疾患	講義	土屋 乃理子
11	内耳疾患	講義	土屋 乃理子
12	鼻、めまい疾患	講義	土屋 乃理子
13	咽喉疾患	講義	土屋 乃理子
14	咽喉疾患	講義	土屋 乃理子
15	まとめ		
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔 医学書院			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 現代医療論

区分：専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

【科目担当者】 山本 格		【実務経験の有無および経歴】 有（医師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 医学の発達、医療の体系と機能と機能を学び、医療が担っている社会的役割を理解する。現代医療における問題について理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	現代医療のあゆみ、発展	講義	山本 格
2	今後の医学・医療の方向	講義	山本 格
3	健康と疾病	講義	山本 格
4	生活と健康	講義	山本 格
5	医学と医療、	講義	山本 格
6	医療の実践	講義	山本 格
7	医療における看護師の役割	講義	山本 格
8	日本の医療供給体制の現状と整備の経過	講義	山本 格
9	医療関係者の現状と養成の実態	講義	山本 格
10	医療保障の現状と課題	講義	山本 格
11	医療の進歩と医の倫理	講義	山本 格
12	医療における患者の権利	講義	山本 格
13	脳死と臓器移植	講義	山本 格
14	死と生命保持、安楽死	講義	山本 格
15	まとめ	講義	山本 格
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔1〕 総合医療論 医学書院			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・出席状況・授業態度 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 公衆衛生学

区分：専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

【科目担当者】 松原 清吾		【実務経験の有無および経歴】 有（歯科医師として医療現場に従事）	
【単位数】 2	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 公衆衛生活動の実践と理解する。公衆衛生に関する統計情報を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	看護教育における公衆衛生	講義	松原清吾
2	公衆衛生の理念、健康の概念	講義	松原清吾
3	健康指標や健康の概念、国・地方の健康活動の役割と看護職の担う役割	講義	松原清吾
4	公衆衛生の法・制度・しくみ	講義	松原清吾
5	公衆衛生の対象と活動①	講義	松原清吾
6	公衆衛生の対象と活動②	講義	松原清吾
7	公衆衛生の対象と活動③	講義	松原清吾
8	公衆衛生の対象と活動④	講義	松原清吾
9	公衆衛生の対象と活動⑤	講義	松原清吾
10	公衆衛生の対象と活動⑥	講義	松原清吾
11	医療行為における情報公開	講義	松原清吾
12	危機管理	講義	松原清吾
13	ジェンダー、生命倫理	講義	松原清吾
14	公衆衛生と国際化	講義	松原清吾
15	まとめ	講義	松原清吾
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			
【評価方法】 客観試験 90%、出席状況・授業態度 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 社会福祉

区分：専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

【科目担当者】 長谷川 宏昭		【実務経験の有無および経歴】 有（福祉行政職に従事）	
【単位数】 2	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 社会福祉の理念と歴史を学び、現状を知り社会資源の活用の仕方を理解する。福祉と医療の連携の必要性を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	社会福祉の基本的性格	講義	長谷川宏昭
2	生活問題の展開と社会福祉の基本的動向	講義	長谷川宏昭
3	社会保障と社会福祉制度	講義	長谷川宏昭
4	社会保障と社会福祉制度	講義	長谷川宏昭
5	社会保障制度	講義	長谷川宏昭
6	社会保障制度	講義	長谷川宏昭
7	社会福祉の分野とサービス	講義	長谷川宏昭
8	老人福祉、老人福祉施策	講義	長谷川宏昭
9	障害者福祉・母子福祉	講義	長谷川宏昭
10	児童福祉、母子保健、生活保護制度	講義	長谷川宏昭
11	社会福祉実践の共通基盤	講義	長谷川宏昭
12	会福祉の連携・協働の重要性および必然性を理解	講義	長谷川宏昭
13	社会福祉の連携・協働の重要性および必然性を理解	講義	長谷川宏昭
14	社会福祉の形成と現代	講義	長谷川宏昭
15	まとめ	講義	長谷川宏昭
【使用教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会福祉 医学書院			
【評価方法】 客観試験 85%、課題提出・出席状況 15% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 関係法規

区分：専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）

【科目担当者】 西川 眞		【実務経験の有無および経歴】 有（獣医師として県行政に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 看護を取り巻く社会構造には、人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように、様々な仕組みができています。関係法規の学習では、単に看護師の業務や責任について学ぶだけでなく、職務遂行に必要な保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、連携する各職種への理解などを含むものとする。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	法の概念・健康政策のための仕組み、個別法と憲法との関連	講義	西川 眞
2	医事法・関連職務と性格、それぞれの制限と遵守事項	講義	西川 眞
3	保健衛生法・地域や集団に対する恒常的な保護、健康対策	講義	西川 眞
4	保健衛生法・侵入する危害要因に対する備え	講義	西川 眞
5	薬務法・医薬品に関する諸規定と性格	講義	西川 眞
6	薬務法・麻薬、毒物に関する諸規定と性格	講義	西川 眞
7	環境衛生法・営業施設の規定と関連する健康被害対策	講義	西川 眞
8	環境衛生法・ライフライン、生活環境の維持と事故防止	講義	西川 眞
9	社会保険法・制度と受益者の位置づけ、関係する団体	講義	西川 眞
10	社会保険法・健康保険、介護保険、年金の詳細	講義	西川 眞
11	福祉法・社会構造と関連法規の関係	講義	西川 眞
12	福祉法・社会構造と看護師の役割（前回までのまとめを含む）	講義	西川 眞
13	労働法・産業保健の視点から看護師の役割を理解する（まとめ）	講義	西川 眞
14	環境法・環境保健の視点から、看護師の役割を理解する（まとめ）	講義	西川 眞
15	全体の復習とまとめ	講義	西川 眞
【使用教科書】 1) 「看護関係法令」系統看護学講座・専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4（医学書院） 2) 「国民衛生の動向」（当年版または前年版）（厚生労働統計協会）			
【評価方法】 客観試験 90%、出席状況・授業態度 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 基礎看護学概論

区分：専門分野Ⅰ（基礎看護学）

【科目担当者】 金子 陽子		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 「看護とは何か」を考え、人間・健康・環境と看護のかかわりを学ぶ。 看護の役割と機能の概要を理解する。 主要な看護理論家の看護概念を学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	看護学を学び始めるにあたって	講義	金子陽子
2	看護の定義、変遷①	講義	金子陽子
3	看護の定義、変遷②	講義	金子陽子
4	看護の役割と機能	講義	金子陽子
5	看護の対象の理解①	講義	金子陽子
6	看護の対象の理解②	講義	金子陽子
7	生活者の健康をとらえる①	講義	金子陽子
8	生活者の健康をとらえる②	講義	金子陽子
9	生活者の健康をとらえる③	講義	金子陽子
10	看護の歴史	講義	金子陽子
11	看護職の養成制度と就業状況	講義	金子陽子
12	看護職者の教育とキャリア開発	講義	金子陽子
13	看護をめぐる制度と政策	講義	金子陽子
14	保健師助産師看護師法	講義	金子陽子
15	まとめ	講義	金子陽子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論（医学書院） 副読本：看護者の基本的責務（日本看護協会） 看護覚え書（現代社） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）			
【評価方法】 客観試験 90%、課題提出・授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 看護基本技術Ⅰ

区分：専門分野Ⅰ（基礎看護学）

【科目担当者】		【実務経験の有無および経歴】	
金子 陽子		有（看護師として医療現場に従事）	
武田 裕美		有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次
【開講時期】 前期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】			
看護実践の基盤となるコミュニケーションの基本的な方法を理解し、効果的な対応を学ぶ。			
感染防止の基本であるスタンダードプリコーションを理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	看護技術を学ぶにあたって 看護技術の基本原則	講義	金子陽子
2	感染防止の基礎知識	講義	武田裕美
3	手指衛生の実際（流水による手洗い、手指消毒）	講義・演習	武田裕美
4	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識、実際①	講義	武田裕美
5	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識、実際②	演習	武田裕美
6	標準予防策の基礎知識、対策の実際①	講義	武田裕美
7	標準予防策の基礎知識、対策の実際②	演習	武田裕美
8	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義	金子陽子
9	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	講義	金子陽子
10	関係構築のためのコミュニケーションの基本	演習・演習	金子陽子
11	コミュニケーション障害への対応	講義	金子陽子
12・13	効果的なコミュニケーションの技法①②	講義・演習	金子陽子
14	面接技法 看護面接技術 グループワークの基礎知識	講義・演習	金子陽子
15	まとめ	講義	金子陽子
【使用教科書】			
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）			
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）			
コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集（初級）（ウィネット）			
副読本：看護技術プラクティス 第3版（学研）			
【評価方法】			
客観試験 90%、授業態度・課題提出・出席状況 10%			
成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 看護基本技術Ⅱ

区分：専門分野Ⅰ（基礎看護学）

【科目担当者】 竹原 章子		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの意義について学ぶ。 健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識とフィジカルイグザミネーション（技術）について学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	ヘルスアセスメントとは ヘルスアセスメントに必要な技術（問診、視診、触診、聴診、打診）	講義	竹原章子
2	バイタルサインとは 中枢神経系のアセスメント：（意識レベル評価 対光反射 脳幹反応 呼吸パターン 体温）	講義・演習	竹原章子
3	循環器系のアセスメント（血圧と脈拍、心音聴取、心尖拍動）	講義・演習	竹原章子
4	呼吸器系のアセスメント（呼吸観察、呼吸音聴取、胸郭拡張）	講義・演習	竹原章子
5・6	バイタルサイン測定の実際①	演習	竹原章子
7・8	バイタルサイン測定の実際②	技術試験	竹原章子
9	頭頸部・乳房・腋窩のアセスメント	講義・演習	竹原章子
10	口腔・消化器系のアセスメント（腸蠕動音聴取の方法 咽頭反射）	講義・演習	竹原章子
11	感覚器系のアセスメント（眼位 眼球運動 視野 聴覚 皮膚覚）	講義・演習	竹原章子
12	運動器系のアセスメント（ROM, MMT 小脳評価 平衡感覚） 身体の水平・垂直 人体のとらえ方	講義・演習	竹原章子
13	心理社会的側面のアセスメント	講義	竹原章子
14	フィジカルイグザミネーション	演習	竹原章子
15	まとめ	演習	竹原章子
【使用教科書】 系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院） 副読本：看護技術プラクティス 第3版（学研）			
【評価方法】 客観試験、論述試験 70%、技術試験・授業態度・出席状況 30% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 生活援助技術Ⅰ

区分：専門分野Ⅰ（基礎看護学）

【科目担当者】 西山 美夏	【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目目標】 【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 ・対象を取り巻く環境を整え、安全で快適な病床環境を提供できる技術を学ぶ ・活動・休息・睡眠の意義を理解し、対象のセルフケア能力に応じた援助方法を学ぶ			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	環境とは 環境調整と看護の役割	講義	西山美夏
2	病床環境とその調整 環境に潜む危険	講義・GW	西山美夏
3	基本的活動の援助 体位変換の基本 床上移動 ボディメカニクスの原理と看護実践への活用について	講義	西山美夏
4	環境整備・ベッドメイキングの基本知識と基本動作	演習	西山美夏
5・6	ベッドメイキング	演習	西山美夏
7	体位の種類と身体への影響（低運動性障害） 安楽な姿勢・体位の特徴（ポジショニング）	講義・演習	西山美夏
8	臥床患者のシーツ交換の基本知識と基本動作	講義・演習	西山美夏
9・10	臥床患者のシーツ交換	演習	西山美夏
11	活動・運動に影響する要因のアセスメント	講義	西山美夏
12	休息・睡眠に影響する要因のアセスメント	講義	西山美夏
13	移動・移送の基本知識と基本動作	講義	西山美夏
14	車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送	演習	西山美夏
15	まとめ	講義	西山美夏
【使用教科書】 系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ （医学書院） 副読本：看護技術プラクティス 第3版（学研）			
【評価方法】 客観試験、論述試験 70%、課題提出状況・出席状況・授業演習態度 30% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 生活援助技術 II

区分：専門分野 I（基礎看護学）

【科目担当者】 松田 瑞葵	【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 ・健康な生活における食事・栄養の意義を理解し、対象に応じた食事援助技術を学ぶ ・健康な生活における排泄の意義を理解し、対象に応じた排泄援助技術を学ぶ			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	食事栄養の意義、食事援助の基礎知識	講義	松田 瑞葵
2	栄養状態、食欲、摂食能力のアセスメント	講義	松田 瑞葵
3	食事援助の基礎知識	講義	松田 瑞葵
4・5	食事のマナー、食事介助の実際	演習	松田 瑞葵
6	非経口的栄養（経管栄養法、中心静脈栄養）	講義	松田 瑞葵
7	排泄の意義、排便、排尿のメカニズム 排泄アセスメントの視点	講義	松田 瑞葵
8	自然排尿・排便の援助（尿器・便器挿入）	講義・演習	松田 瑞葵
9	排尿障害の基礎知識と援助の基本動作	講義	松田 瑞葵
10・11	一時的導尿法、持続的導尿法の援助	演習	松田 瑞葵
12	排便障害の基礎知識と援助の基本動作（浣腸、摘便、ストーマケア）	講義	松田 瑞葵
13・14	グリセリン浣腸の援助	演習	松田 瑞葵
15	まとめ	講義	松田 瑞葵
【使用教科書】 系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I・II （医学書院） 副読本：第3版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（秋葉公子他著）（ヌーヴェルヒロカワ） 副読本：看護技術プラクティス 第3版（学研）			
【評価方法】 客観試験 80%、授業態度・課題提出・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 生活援助技術Ⅲ

区分：専門分野Ⅰ（基礎看護学）

【科目担当者】 渡邊 由香		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 人間にとっての衣生活の重要性を理解し、衣生活に関するアセスメントと援助方法を学ぶ 人間にとっての清潔の意義を理解し、身体の清潔に関するアセスメントと援助方法を学ぶ			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	清潔・衣生活援助の目的・基礎知識	講義	渡邊 由香
2	寝衣交換の基本知識、基本技術 寝衣のたたみ方	講義・演習	渡邊 由香
3	病衣・寝衣交換の実際	演習	渡邊 由香
4	清潔援助の目的・基礎知識・基本技術①（全身・部分清拭）	講義	渡邊 由香
5	全身清拭の基本技術 全身清拭と寝衣交換プレトレーニング	講義・演習	渡邊 由香
6・7	清潔援助の実際（全身清拭）	演習	渡邊 由香
8	清潔援助の目的・基礎知識・基本技術②（手・足浴、陰部洗浄）	講義	渡邊 由香
9	清潔援助の実際（陰部洗浄）	演習	渡邊 由香
10	清潔援助の実際（足浴）	演習	渡邊 由香
11	清潔援助の目的・基礎知識・基本技術③（洗髪・口腔ケア）	講義	渡邊 由香
12・13	清潔援助の実際（洗髪）	演習	渡邊 由香
14	清潔援助の実際（口腔ケア）	演習	渡邊 由香
15	まとめ	講義	渡邊 由香
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 副読本：看護技術プラクティス 第3版（学研）			
【評価方法】 客観試験 80%、授業態度・課題提出・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 診療の補助技術Ⅰ

区分：専門分野Ⅰ（基礎看護学）

【科目担当者】 大石 美香代	【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 与薬や輸血を正しく理解し、正しい基本的技術を身につける。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	与薬の基礎知識	講義	大石美香代
2	与薬における看護師の役割(正しい与薬と薬の管理)	講義	大石美香代
3	与薬援助①（経口、直腸、吸入、外用他）	講義	大石美香代
4	与薬援助②（経口、直腸、吸入、外用他）	講義	大石美香代
5	与薬の基礎知識（薬液の計算）	講義	大石美香代
6	注射器・針・アンプルの取り扱い	講義・演習	大石美香代
7	筋肉内注射・皮下注射法の安全性と部位の確認	講義・演習	大石美香代
8・9	筋肉内注射・皮下注射法の実施	講義・演習	大石美香代
10	静脈注射法・点滴静脈法に伴う危険	講義・演習	大石美香代
11・12	静脈注射法・点滴静脈法の管理と実施	演習	大石美香代
13	皮内注射の援助	講義	大石美香代
14	輸血の看護	講義	大石美香代
15	まとめ	講義	大石美香代
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 副読本：医療安全ワークブック（川村治子著）（医学書院） 看護技術プラクティス 第3版（学研）			
【評価方法】 客観試験 90%、課題提出・授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 診療の補助技術Ⅱ

区分：専門分野Ⅰ（基礎看護学）

【科目担当者】 西山 美夏 伊藤 満		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（臨床工学技士として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 診療、治療、検査が安全・安楽に行えるための知識・技術を学ぶ。呼吸管理の技術を学ぶ。医療機器の基本的な取扱いがわかる。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	診療・検査時における看護師の役割と検査の種類	講義	西山美夏
2	検体検査・生体検査・生理検査	講義	西山美夏
3	検査後に必要な技術	講義	西山美夏
4	身体計測とその実際(包帯法を含む)	講義・演習	西山美夏
5	静脈血採血の実際	講義	西山美夏
6・7	静脈血採血の実際	講義・演習	西山美夏
8	呼吸管理について	講義	西山美夏
9・10	呼吸管理技術の実際（口腔・鼻腔・気管吸引）	講義・演習	西山美夏
11	酸素ポンベの取り扱い、酸素吸入療法の実際	講義・演習	西山美夏
12	ME機器の取り扱い①（人工呼吸器、パルスオキシメーター）	講義・演習	伊藤満
13	ME機器の取り扱い②(輸液ポンプ・シリンジポンプ)	講義・演習	伊藤満
14	ME機器の取り扱い③（ECG モニター、心電図、除細動器 AED）	講義・演習	伊藤満
15	まとめ	講義	西山美夏
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 副読本：看護技術プラクティス 第3版（学研）			
【評価方法】 客観試験 70%、課題提出・授業態度・出席状況 30% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 看護過程

区分：専門分野Ⅰ（基礎看護学）

【科目担当者】 小川のぞみ	【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前・後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 看護過程の基礎を学習し、看護過程の意義を理解する。 看護理論を用いて系統的・科学的・意図的な思考過程を学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	看護過程とは 問題解決思考とクリティカルシンキング	講義	小川のぞみ
2	看護過程と看護理論	講義	小川のぞみ
3	看護過程の構成要素と情報分析・分析の方法	講義	小川のぞみ
4	看護記録の意義・必要性和種類	講義	小川のぞみ
5	看護過程の各段階（アセスメント《情報の収集、分類・整理》）	講義・演習	小川のぞみ
6	看護過程の各段階（アセスメント《情報の分析・解釈》）	講義・演習	小川のぞみ
7	看護過程の各段階（アセスメント《情報の分析・解釈》）	講義・演習	小川のぞみ
8	看護過程の各段階（アセスメント《情報の分析・解釈の統合》）	講義・演習	小川のぞみ
9	看護過程の各段階（アセスメント《情報の分析・解釈の統合》）	講義・演習	小川のぞみ
10	看護過程の各段階（看護問題の明確化と優先順位決定）	講義・演習	小川のぞみ
11	看護過程の各段階（看護問題の明確化と優先順位決定）	講義・演習	小川のぞみ
12	看護過程の各段階（看護目標の設定と計画）	講義・演習	小川のぞみ
13	看護過程の各段階（看護目標の設定と計画）	講義・演習	小川のぞみ
14	看護過程の各段階（実施・評価）	講義	小川のぞみ
15	まとめ	講義	小川のぞみ
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 副読本：改訂第4版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーヴェルヒロカワ）			
【評価方法】 客観試験 90%、課題提出・授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 臨床看護総論

区分：専門分野Ⅰ（基礎看護学）

【科目担当者】 松田 瑞葵		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 既習の知識、技術を統合し看護を実践する考え方を学ぶ			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	臨床看護とは	講義	松田瑞葵
2	健康維持・増進を目指す看護	講義	松田瑞葵
3	胸痛のある患者の看護	講義	松田瑞葵
4	出血時の看護	講義	松田瑞葵
5	意識障害のある患者の看護	講義	松田瑞葵
6	呼吸困難のある患者の看護	講義	松田瑞葵
7・8	救命処置	演習	松田瑞葵
9	回復・リハビリ期にある患者の看護	講義	松田瑞葵
10	発熱時の看護	講義	松田瑞葵
11	発熱時の看護	演習	松田瑞葵
12	慢性期にある患者の看護	講義	松田瑞葵
13	食欲不振のある患者の看護	講義	松田瑞葵
14	終末期にある患者の看護	講義	松田瑞葵
15	まとめ	講義	松田瑞葵
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅰ （医学書院） 副読本：看護技術プラクティス 第3版（学研）			
【評価方法】 客観試験・論述試験 70%、提出物の内容 20%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 基礎看護学実習Ⅰ

区分：専門分野Ⅰ（臨地実習）

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 1	【時間数】 45 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期

※「臨地実習」についてはシラバス最下段に一覧表としてまとめる。

授業科目 基礎看護学実習Ⅱ

区分：専門分野Ⅰ（臨地実習）

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 1	【時間数】 90 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 後期

※「臨地実習」についてはシラバス最下段に一覧表としてまとめる。

授業科目 成人看護学概論

区分：専門分野Ⅱ（成人看護学）

【科目担当者】 宮崎 信子		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 成人期にある人の特徴と成人保健の動向と理解し、健康な生活を保持・増進するために必要な看護の役割を学ぶ			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	成人とは、成人をとりまく今日の状況	講義	宮崎信子
2	成人期の特徴①	講義	宮崎信子
3	成人期の特徴②	講義	宮崎信子
4	成人保健と今日の健康動向①	講義・演習	宮崎信子
5	成人保健と今日の健康動向②	講義・演習	宮崎信子
6	成人保健と今日の健康動向③	講義・演習	宮崎信子
7	成人保健と今日の健康動向④	講義・演習	宮崎信子
8	成人期にある人を看護するための基本的な考え方①	講義	宮崎信子
9	成人期にある人を看護するための基本的な考え方②	講義	宮崎信子
10	健康状態に応じた看護① 健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護	講義	宮崎信子
11	健康状態に応じた看護② 健康状態が急激に変化し急性の状態にある人への看護	講義	宮崎信子
12	健康状態に応じた看護③ 生活機能障害を有する人々やリハビリテーション看護	講義	宮崎信子
13	健康状態に応じた看護④ 慢性的な経過をたどる健康障害を有する人々への看護	講義	宮崎信子
14	健康状態に応じた看護⑤ 人生の最期のときを迎える人への看護	講義	宮崎信子
15	まとめ	講義	宮崎信子
【使用教科書】 成人看護学 成人看護学概論 （南江堂） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向 （厚生統計協会）			
【評価方法】 客観試験 90%、 出席状況・授業態度（演習参加状況も含む）・課題提出状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 成人看護学方法論Ⅰ

区分：専門分野Ⅱ（成人看護学）

【科目担当者】 中濱 美也子 竹原 章子		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 前期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 循環器、呼吸器、脳・神経機能に障害をもつ対象及びその家族への看護の方法を学ぶ			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	循環機能障害のある患者の看護① （機能障害のアセスメント、症状とその看護）	講義	竹原章子
2	循環機能障害のある患者の看護②（検査を受ける患者の看護： 心臓カテーテル検査、血管造影検査）	講義	竹原章子
3	循環機能障害のある患者の看護③（治療を受ける患者の看護： ペースメーカー、冠動脈バイパス術、IABA、PCI）	講義	竹原章子
4	循環機能障害のある患者の看護④（機能障害をもちながら生活する人の 看護：心不全、虚血性心疾患、不整脈、下肢動脈閉塞症）	講義	竹原章子
5	呼吸機能障害のある患者の看護① （機能障害のアセスメント、症状とその看護）	講義	竹原章子
6	呼吸機能に障害のある患者の看護②（検査を受ける患者の看護）	講義	竹原章子
7	呼吸機能に障害のある患者の看護③（治療を受ける患者の看護）	講義	竹原章子
8	呼吸機能に障害のある患者の看護④（機能障害をもちながら生活する人 の看護：肺癌、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息）	講義	竹原章子
9	呼吸機能に障害のある患者の看護⑤（体位ドレナージ）	講義・演習	竹原章子
10	脳・神経に障害のある患者の看護① （機能障害のアセスメント、症状とその看護）	講義	中濱美也子
11	脳・神経に障害のある患者の看護②（検査を受ける患者の看護）	講義	中濱美也子
12	脳・神経に障害のある患者の看護③（治療を受ける患者の看護）	講義	中濱美也子
13	脳・神経に障害のある患者の看護④（機能障害をもちながら生活する人 の看護：くも膜下出血、脳血管障害、脳腫瘍、脳梗塞）	講義	中濱美也子
14	脳・神経に障害のある患者の看護④（機能障害をもちながら生活する人 の看護：小脳梗塞、脊髄損傷、脳死状態）	講義	中濱美也子
15	まとめ	講義	竹原章子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 循環器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 呼吸器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経（医学書院） 成人看護学 成人看護技術（南江堂）			
【評価方法】 客観試験 90%、 出席状況・授業態度（演習参加状況も含む）・課題提出状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 成人看護学方法論Ⅱ

区分：専門分野Ⅱ（成人看護学）

【科目担当者】 宮崎 信子 渡邊 由香		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 前期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 ・消化・吸収機能障害を持つ対象及びその家族への看護の方法を学ぶ。 ・栄養・代謝機能障害をもつ対象及びその家族への看護の方法を学ぶ。 ・運動機能障害を持つ対象およびその家族への看護の方法を学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	消化・吸収機能障害をもつ患者の看護① （機能障害のアセスメント、症状とその看護）	講義	宮崎 信子
2	消化・吸収機能障害をもつ患者の看護② （検査を受ける患者の看護：消化管内視鏡、消化管造影、食道静脈瘤硬化療法、S-B ドレイン）	講義	宮崎 信子
3	消化・吸収機能障害をもつ患者の看護③ （治療を受ける患者の看護：食道がん、胃がん、大腸がんの手術療法と生活援助）	講義	宮崎 信子
4	消化・吸収機能障害をもつ患者の看護④（治療を受ける患者の看護：急性膵炎、膵がん、急性腹症）	講義	宮崎 信子
5	消化・吸収機能障害をもつ患者の看護⑤（機能障害を持ちながら生活する人の看護：人工肛門造設後の生活の援助）	演習	宮崎 信子
6	栄養代謝機能障害を持つ患者の看護① （機能障害のアセスメント、症状とその看護）	講義	宮崎 信子
7	栄養代謝機能障害を持つ患者の看護②（検査を受ける患者の看護）	講義	宮崎 信子
8	栄養代謝機能に障害を持つ患者の看護③（治療を受ける患者の看護：インターフェロン療法、胆道・胆嚢ドレイン挿入中の管理）	講義	宮崎 信子
9	栄養代謝機能に障害を持つ患者の看護④（機能障害をもちながら生活する人の看護：肝炎、肝硬変、肝癌、胆石症、胆管がん）	講義	宮崎 信子
10	運動機能障害のある患者の看護①（機能障害のアセスメント、症状とその看護、検査を受ける患者の看護）	講義	渡邊 由香
11	運動機能障害のある患者の看護② （治療を受ける患者の看護：牽引法、人工関節置換術）	講義	渡邊 由香
12	運動機能障害のある患者の看護③治療を受ける患者の看護：ギプス固定・牽引中のポジショニングや体位変換の援助）	演習	渡邊 由香
13	運動機能障害のある患者の看護④（機能障害をもちながら生活する人の看護：椎間板ヘルニア、重症筋無力症）	講義	渡邊 由香
14	運動機能障害のある患者の看護⑤（機能障害をもちながら生活する人の看護：ギランバレー症候群、筋萎縮性側索硬化症）	講義	渡邊 由香
15	まとめ	講義	宮崎 信子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器（医学書院） 成人看護学 成人看護技術（南江堂）			
【評価方法】 客観試験 90%、 出席状況・授業態度（演習参加状況も含む）・課題提出状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 成人看護学方法論Ⅲ

区分：専門分野Ⅱ（成人看護学）

【科目担当者】 小川 のぞみ		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 後期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 ・ 内部環境調節機能障害にある対象の看護の方法を学ぶ。・ 排泄機能障害をもつ対象及びその家族への看護の方法を学ぶ。 ・ 身体防御機能障害をもつ対象及びその家族への看護の方法を学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	内部環境調節機能障害のある患者の看護① （機能障害のアセスメント、症状とその看護）	講義	小川のぞみ
2	内部環境調節機能障害のある患者の看護② （検査を受ける患者の看護：糖負荷試験、血糖自己測定）	講義・演習	小川のぞみ
3	内部環境調節機能障害のある患者の看護③ （検査を受ける患者の看護：腎生検、腎機能検査）	講義	小川のぞみ
4	内部環境調節機能障害のある患者の看護④（治療を受ける患者の看護：インスリン補充療法、糖尿病内服薬、食事・運動療法）	講義	小川のぞみ
5	内部環境調節機能障害のある患者の看護⑤（治療を受ける患者の看護：血液透析と各期の合併症、援助）	講義	小川のぞみ
6	内部環境調節機能障害のある患者の看護⑥（治療を受ける患者の看護：腹膜透析と各期の合併症、援助、腎移植）	講義	小川のぞみ
7	内部環境調節機能障害のある患者の看護⑦（機能障害をもちながら生活する人の看護：1 型・2 型糖尿病の病期に応じた援助）	講義	小川のぞみ
8	内部環境調節機能障害のある患者の看護⑧（機能障害をもちながら生活する人の看護：急性・慢性腎不全の病期に応じた援助）	講義	小川のぞみ
9	内部環境調節機能障害のある患者の看護⑨ （機能障害をもちながら生活する人の看護：ネフローゼ症候群、腎移植後の患者への援助）	講義	小川のぞみ
10	排泄機能障害のある患者の看護（蓄尿・排尿機能障害、膀胱鏡検査、前立腺切除、尿管ストーマ）	講義	小川のぞみ
11	内分泌機能障害のある患者の看護① （機能障害のアセスメント、症状とその看護）	講義	小川のぞみ
12	内分泌機能障害のある患者の看護②（検査を受ける患者の看護・治療を受ける患者の看護：甲状腺ホルモン療法・切除術）	講義	小川のぞみ
13	身体防御機能障害のある患者の看護①（治療を受ける患者の看護：免疫抑制薬・ステロイド療法）	講義	小川のぞみ
14	身体防御機能障害のある患者の看護②（機能障害のアセスメント、症状とその看護：皮膚粘膜・免疫機能障害による症状、HIV、アレルギー性疾患、自己免疫疾患）	講義	小川のぞみ
15	まとめ	講義	小川のぞみ
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）			
【評価方法】 客観試験 90%、 出席状況・授業態度（演習参加状況も含む）・課題提出状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 成人看護学方法論Ⅳ

区分：専門分野Ⅱ（成人看護学）

【科目担当者】		【実務経験の有無および経歴】	
宮崎 信子		有（看護師として医療現場に従事）	
青海 直子		有（看護師として医療現場に従事）	
西村 香		有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 後期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】			
・性・生殖機能障害をもつ対象への看護の方法を学ぶ。・血液、造血機能に障害を持つ対象への看護の方法を学ぶ。 ・がんの治療や療養に伴う対象とその家族への影響、看護師の役割を学ぶ。・人生の最期の時期を過ごす対象への看護の方法を学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	性・生殖機能障害のある患者の看護① （機能障害のアセスメント、症状とその看護、検査を受ける患者の看護）	講義	宮崎信子
2	性・生殖機能障害のある患者の看護② （治療を受ける患者の看護：乳房切除術、女性生殖器切除術）	講義	宮崎信子
3	血液・造血器機能障害のある患者の看護① （機能障害のアセスメント、症状とその看護）	講義	宮崎信子
4	血液・造血器機能障害のある患者の看護②（検査・治療を受ける患者の看護：骨髄穿刺、骨髄生検、造血幹細胞移植）	講義	宮崎信子
5	血液・造血器機能障害のある患者の看護③（疾患や症状を有する患者の経過別の看護：造血器腫瘍、白血病、貧血、出血傾向、白血球減少）	講義	宮崎信子
6	がん医療とがん患者への看護①（がん患者の抱える苦痛）	講義	青海直子
7	がん患者への看護②（生活上の困難）	講義	青海直子
8	がん患者の治療と看護①（手術療法の看護）	講義	青海直子
9	がん患者の治療と看護② （化学療法時の看護、外来化学療法を受ける患者の看護）	講義	西村香
10	がん患者の治療と看護③（放射線療法時の看護）	講義	西村香
11	がん治療の場と家族への看護 （患者の社会参加への支援と家族への支援）	講義	西村香
12	終末期にある患者および家族への看護① （緩和ケアを必要とする患者と家族への看護）	講義	宮崎信子
13	終末期にある患者および家族への看護② （エンド・オブ・ライフ・ケア、家族の悲嘆へのケア）	講義	宮崎信子
14	終末期にある患者および家族への看護③ （臨死期の看護、死後の処置）	講義・演習	宮崎信子
15	まとめ	講義	宮崎信子
【使用教科書】			
系統看護学講座 別巻 がん看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器（医学書院） ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア（メディカ出版）			
【評価方法】			
客観試験 90%、 出席状況・授業態度（演習参加状況も含む）・課題提出状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 成人看護学方法論Ⅴ

区分：専門分野Ⅱ（成人看護学）

【科目担当者】 小川 のぞみ		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 前期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 ・手術を受ける対象や家族にそのような影響や変化が起こるかを考え、周術期看護の基本について学ぶ ・成人期にある対象の手術療法を受けた患者の事例を通して看護過程の展開を行うことができる			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	周術期の看護①（手術療法の理解を促す援助、手術の意思決定への援助、周術期に関する基礎知識）	講義	小川のぞみ
2	周術期の看護②（外科的侵襲から回復期の生体反応、術後合併症のリスクアセスメント、麻酔方法による影響）	講義	小川のぞみ
3	周術期の看護③（術前指導、ボディイメージの変容への援助、手術体位とその影響、手術方法による影響と援助）	講義	小川のぞみ
4	周術期の看護④（術中の安全管理、術後の疼痛管理、術後合併症の予防、早期回復促進への援助）	講義	小川のぞみ
5	周術期の看護⑤（術後創傷処置、ドレーン管理）	演習	小川のぞみ
6	周術期にある患者の看護（事例展開）①	演習	小川のぞみ
7	周術期にある患者の看護（事例展開）②	演習	小川のぞみ
8	周術期にある患者の看護（事例展開）③	演習	小川のぞみ
9	周術期にある患者の看護（事例展開）④	演習	小川のぞみ
10	周術期にある患者の看護（事例展開）⑤	演習	小川のぞみ
11	周術期にある患者の看護（事例展開）⑥	演習	小川のぞみ
12	周術期にある患者の看護（事例展開）⑦	演習	小川のぞみ
13	周術期にある患者の看護（事例展開）⑧	演習	小川のぞみ
14	周術期にある患者の看護（事例展開）⑨	演習	小川のぞみ
15	まとめ	講義	小川のぞみ
【使用教科書】 ナーシング・グラフィカ 周術期看護 成人看護学④（メディカ出版） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 （ヌーヴェルヒロカワ） 成人看護学 成人看護技術 （南江堂） 疾患別看護過程の展開（学研）			
【評価方法】 客観試験 30%、出席状況・授業態度（演習取り組み状況含む）・課題提出状況 70% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 老年看護学概論

区分：専門分野Ⅱ（老年看護学）

【科目担当者】 小川 美枝子		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 老年期にある対象の特徴と高齢者を取りまく保健医療福祉の動向を学び、老年看護の役割を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	老いのイメージ	講義	小川 美枝子
2～3	高齢者疑似体験	演習	小川 美枝子
4	老いるということ（身体的側面）	講義 グループワーク	小川 美枝子
5	老いるということ（心理・精神・スピリチュアル的側面）	講義 グループワーク	小川 美枝子
6	老いるということ（社会的側面）	講義 グループワーク	小川 美枝子
7	老いるということ（まとめ）	グループ発表	小川 美枝子
8	老いを生きるということ（老年期の発達課題）	講義	小川 美枝子
9	高齢社会の統計的輪郭	講義	小川 美枝子
10	高齢社会における保健医療福祉の動向	講義	小川 美枝子
11	高齢者を支える職種と活動の多様化	講義	小川 美枝子
12	高齢社会における権利擁護と制度	講義	小川 美枝子
13	老年看護と倫理（高齢者虐待、身体への拘束）	グループ発表	小川 美枝子
14	高齢者のエンパワメントを高める看護	講義	小川 美枝子
15	まとめ	講義	小川 美枝子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 国民衛生の動			
【評価方法】 客観・論述試験 80%、出席状況・レポート・課題提出状況・授業態度 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 老年看護学方法論Ⅰ

区分：専門分野Ⅱ（老年看護学）

【科目担当者】 小川 美枝子 近藤 勇人		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 2		【時間数】 4 5 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 前期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 高齢者に特有な健康障害と看護を学ぶと共に、事例を通して看護過程の展開ができる。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	老年期症候群	講義	小川美枝子
2	高齢者のフィジカルアセスメント	講義	近藤 勇人
3	高齢者の疾患の特徴と看護（歯・口腔の疾患）	講義	近藤 勇人
4	高齢者の疾患の特徴と看護（高齢者肺炎、慢性閉塞性肺疾患）	講義	近藤 勇人
5	高齢者の疾患の特徴と看護（白内障・緑内障、難聴、味覚障害）	講義	近藤 勇人
6	高齢者の疾患の特徴と看護 （骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症）	講義	近藤 勇人
7	高齢者の疾患の特徴と看護 （尿路感染症、前立腺肥大症）	講義	近藤 勇人
8	高齢者の疾患の特徴と看護 （皮膚掻痒症・白癬・疥癬）	講義	近藤 勇人
9	高齢者に特徴的な感染症と看護 （MRSA・インフルエンザ・ノロウイルス）	講義	近藤 勇人
10	高齢者の疾患の特徴と看護（虚血性心疾患、心不全）	講義	近藤 勇人
11	高齢者の疾患の特徴と看護（脳血管障害、うつ病）	講義	近藤 勇人
12	高齢者の疾患の特徴と看護（認知症）	講義	小川美枝子
13	高齢者の安全な薬物療法と看護	講義	小川美枝子
14	保健医療福祉施設における看護、高齢者のリハビリテーション	講義	小川美枝子
15	終末期における看護（エンドオブライフケア）	講義	小川美枝子
16	高齢者の看護過程の考え方（ゴードンの機能的健康パターン）	講義	小川美枝子
17～22	老年期にある対象に対する看護過程の展開（事例） ・情報の分類とアセスメント ・全体像と看護の視点 ・看護計画の立案 ・発表 ・まとめ	演習	小川美枝子
23	まとめ	講義	小川美枝子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院）			
【評価方法】 客観試験 80％、レポート・課題提出・出席状況・授業態度 20％ 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 老年看護学方法論Ⅱ

区分：専門分野Ⅱ（老年看護学）

【科目担当者】 小川 美枝子 武田 裕美		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 後期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 老年看護で必要な日常生活援助技術を学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	高齢者の日常生活援助技術の基本的な考え方	講義	小川美枝子
2	高齢者の動きの特徴と看護技術の特性	講義	小川美枝子
3～4	高齢者の転倒・転落のアセスメント 寝返り・座る・立つ・歩行の看護技術	講義 → 演習	小川美枝子
5～6	高齢者の気持ちの良い排泄のアセスメント ベッド上・トイレでのおむつ交換の看護技術	講義 → 演習	小川美枝子
7	ベッド上での排便の看護技術	講義 → 演習	小川美枝子
8～9	高齢者の生きる活力となる食事の看護 片麻痺がある高齢者の食事・口腔ケアの看護技術	講義 → 演習	武田裕美
10～ 11	高齢者の快適な衣生活の看護 ベッド上・車椅子上での脱衣と着衣（靴下の脱着を含む）	講義 → 演習	武田裕美
12～ 13	高齢者が活性化する清潔の看護 ハンドケア・フットケア・爪・耳のケア	講義 → 演習	武田裕美
14	複合事例の検討	グループ発表	武田裕美
15	まとめ	講義	小川美枝子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院） カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術（医歯薬出版株式会社）			
【評価方法】 客観・論述試験 80%、出席状況・レポート・課題提出状況・授業態度 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 小児看護学概論

区分：専門分野Ⅱ（小児看護学）

【科目担当者】 鈴木 里子		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 子どもの健やかな成長発達と子どもの最善の利益のために、子どもと家族の特徴と社会の変化を踏まえた小児看護の役割について学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	小児看護の対象、目標と役割	講義	鈴木里子
2	子どもと家族の諸統計	講義	鈴木里子
3	小児看護の変遷と課題	講義	鈴木里子
4	小児看護における倫理	講義	鈴木里子
5～7	子どもの成長発達と評価、小児看護における理論 ・新生児・乳児期 ・幼児期 ・学童・思春期	講義	鈴木里子
8～11	発達段階に伴う子どもと家族 ・新生児・乳児期 ・幼児期 ・学童・思春期 ※10・11 コマを2コマ続きとする。	講義 グループワーク	鈴木里子
12	子どもと家族を取り巻く社会（児童福祉）	講義	鈴木里子
13	子どもと家族を取り巻く社会（母子保健）	講義	鈴木里子
14	子どもと家族を取り巻く社会（予防接種・学校保健）	講義	鈴木里子
15	まとめ	講義	鈴木里子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向			
【評価方法】 客観試験 95%、グループワーク参加状況 5% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 小児看護学方法論Ⅰ

区分：専門分野Ⅱ（小児看護学）

【科目担当者】 鈴木 里子 高橋 勇弥、岩渕 晴子、長崎 啓祐、 山田 剛史、沼野 藤人		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（左記5名ともに医師として医療現場に従事）	
【単位数】 2	【時間数】 4 5 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 健康障害をもつ子どもの持てる力を引き出すために、子どもと家族に対する看護について学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	病気・障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護	講義	鈴木里子
2	入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	講義	鈴木里子
3	小児外来における看護	講義	鈴木里子
4	検査・処置を受ける子どもと家族への看護①	講義	鈴木里子
5	検査・処置を受ける子どもと家族への看護②	演習	鈴木里子
6	急性期にある子どもと家族への看護（先天性心疾患）	講義	鈴木里子
7	周手術期にある子どもと家族への看護	講義	鈴木里子
8	急性期にある子どもと家族への看護（低出生体重児）	講義	鈴木里子
9	急性期にある子どもと家族への看護（乳幼児下痢症）	講義	鈴木里子
10	急性期にある子どもと家族への看護（川崎病）	講義	鈴木里子
11	急性期にある子どもと家族への看護（気管支喘息）	講義	鈴木里子
12	慢性期にある子どもと家族への看護（口唇口蓋裂）	講義	鈴木里子
13	慢性期にある子どもと家族への看護（ネフローゼ症候群）	講義	鈴木里子
14	障害のある子どもと家族への看護（脳性まひ）	講義	鈴木里子
15	終末期にある子どもと家族への看護（神経芽腫）	講義	鈴木里子
16	子どもの事故と救急①	講義	鈴木里子
17	子どもの事故と救急②	演習	鈴木里子
18	子どもの疾患：先天異常 神経疾患	講義	高橋勇弥
19	子どもの疾患：新生児・低出生体重児の疾患 呼吸器・循環器疾	講義	沼野藤人
20	子どもの疾患：内分泌疾患 消化器疾患	講義	長崎啓祐
21	子どもの疾患：感染症 アレルギー 腎・泌尿器疾患	講義	山田剛史
22	子どもの疾患：血液・造血器疾患 心身症・発達障害	講義	岩渕晴子
23	まとめ		鈴木里子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論（医学書院）			
【評価方法】 客観試験・論述試験 93%（小児科医師 30%、専任教員 63%） 出席状況・授業態度（グループワーク参加状況含む）・課題提出状況 7% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 小児看護学方法論Ⅱ

区分：専門分野Ⅱ（小児看護学）

【科目担当者】 鈴木 里子		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 後期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 小児看護を実践するために必要な基本的看護技術を学ぶ。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1～9	病気をもつ子どもとその家族に対する看護過程の展開 事例)RS ウイルス細気管支炎に罹患した幼児期の子どもと家族 ※8 回目・9 回目を 2 コマ続きとする。	グループワーク 演習	鈴木里子
10～14	子どもの特徴を踏まえた看護技術 1) 主な小児看護技術 8 項目 2) 発達段階に応じた留意点（安全面、ディストラクション） 3) 事例に応じた看護技術の実際 事例) RS ウイルス細気管支炎に罹患した子どもと家族 <看護技術> 1) 身体計測 2) バイタルサイン測定 3) 診察の介助・採尿法 4) 経口与薬・座薬 5) 採血・末梢静脈内持続点滴 6) 酸素療法 7) 薬物吸入 8) 腰椎穿刺・骨髄穿刺 ※最後の 2 回を 2 コマ続きとする。	グループワーク 演習	鈴木里子
15	まとめ		鈴木里子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論（医学書院）			
【評価方法】 客観試験・論述試験 90%、出席状況・授業態度（グループワーク参加状況含む）・課題提出状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 母性看護学概論

区分：専門分野Ⅱ（母性看護学）

【科目担当者】 高島 葉子		【実務経験の有無および経歴】 有（助産師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 母性の意義と特徴及び母性看護の機能と役割について総合的に理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	母性看護の基盤となる概念	講義	高島 葉子
2	母性の健康と看護	講義	高島 葉子
3	母性看護の対象と特性 1（形態・機能）	講義	高島 葉子
4	母性看護の対象と特性 2	講義	高島 葉子
5	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと母性看護 1	講義	高島 葉子
6	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと母性看護 2	講義	高島 葉子
7	ウイメンズヘルス 1（全体・思春期）	講義	高島 葉子
8	ウイメンズヘルス 2（思春期）	講義	高島 葉子
9	ウイメンズヘルス 3（成熟期）	講義	高島 葉子
10	ウイメンズヘルス 3（更年期・老年期）	講義	高島 葉子
11	日本および諸外国における母性看護の変遷と現状	講義	高島 葉子
12	周産期医療システムと母子保健施策 1 母子地域包括支援	講義	高島 葉子
13	周産期医療システムと母子保健施策 2 制度・法律	講義	高島 葉子
14	日本における母性看護（ウイメンズヘルス・母子保健）の未来	講義	高島 葉子
15	まとめ	講義	高島 葉子
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論（医学書院） 副読本：国民衛生の動向（厚生統計協会）			
【評価方法】 ・客観試験（授業終了後）60 点、ミニテスト（各講義後）20 点 ・課題への取り組み、WEB 授業への参加状況（主体的か、深く考えているか、質問に対する反応、提出期日を守れているか）20 点 ・授業形態の変更に伴い、評価方法も変更せざるを得ない事態が生ずるかもしれません。 その場合は、なるべく早くお伝えいたします。 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 母性看護学方法論Ⅰ

区分：専門分野Ⅱ（母性看護学）

【科目担当者】 高見 富美恵		【実務経験の有無および経歴】 有（助産師として医療現場に従事）	
【単位数】 2	【時間数】 4 5 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 前・後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 母性の営みが著名な妊娠・分娩・産褥にある母性と胎児及び新生児を対象とした、身体的・心理的・社会的側面の影響について理解し、母性の健全な発達や母子の安全な看護のあり方を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	生命誕生と母性看護（母性看護の位置づけ、母性看護とは）	講義	高見富美恵
2	妊娠期の特徴と看護（妊娠とは、妊娠成立過程）	講義	高見富美恵
3	妊娠期の特徴と看護（妊婦の生理的変化）	講義	高見富美恵
4	妊娠期の特徴と看護（妊婦の心理と社会的変化）	講義	高見富美恵
5	妊娠期の特徴と看護（胎児の発育と健康状態）	講義	高見富美恵
6	妊娠期の特徴と看護（妊婦の保健相談）	講義	高見富美恵
7	妊娠期の特徴と看護（マイナートラブル、ハイリスク妊娠の看護）	講義	高見富美恵
8	分娩期の特徴と看護（分娩の経過（帝王切開術含む））	講義	高見富美恵
9	分娩期の特徴と看護（分娩の想起、産婦の心理、いいお産とは、パースプラン）	講義・グループワーク	高見富美恵
10	分娩期の特徴と看護（産婦・胎児、家族のアセスメント）	講義	高見富美恵
11	分娩期の特徴と看護（分娩第1期～4期の具体的な看護ケア）	講義	高見富美恵
12	分娩期の特徴と看護（ハイリスク産婦の看護）	講義	高見富美恵
13	産褥期の特徴と看護（産褥の定義、産褥期の身体的変化）	講義	高見富美恵
14	産褥期の特徴と看護（産褥期の看護：退行性変化への看護）	講義	高見富美恵
15	産褥期の特徴と看護（産褥期の看護：進行性変化への看護）	講義	高見富美恵
16	産褥期の特徴と看護（産褥期の心理・社会的変化）	講義	高見富美恵
17	産褥期の特徴と看護（産褥期の看護：母親役割獲得の支援、家族支援）	講義	高見富美恵
18	産褥期の特徴と看護（ハイリスク褥婦と看護）	講義	高見富美恵
19	新生児の特徴と看護（新生児の定義、新生児の形態的特徴）	講義	高見富美恵
20	新生児の特徴と看護（新生児の生理的特徴と適応過程）	講義	高見富美恵
21	新生児の特徴と看護（母子相互作用、新生児の看護）	講義	高見富美恵
22	新生児の特徴と看護（ハイリスク新生児の看護）	講義	高見富美恵
23			
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論（医学書院）			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 母性看護学方法論Ⅱ

区分：専門分野Ⅱ（母性看護学）

【科目担当者】 西山 美夏 大石 美香代		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 後期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 既習した各期の対象と看護に関する知識を統合して、妊娠・分娩・産褥及び新生児期に必要な基本的な援助技術を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	妊婦健康診査時に行われる検査と看護	講義	西山美夏
2	妊婦健康診査時に行われる技術、妊婦体験 （諸計測・レオポルド触診法・ノンストレステスト）	講義・演習	大石美香代
3	分娩時の呼吸法と補助動作・リラックス法、胎盤観察と計測	講義・演習	大石美香代
4	産後の退行性変化の観察と促進法	講義	大石美香代
5	産後の進行性変化と母乳確立の促進法・トラブルの対処法	講義	大石美香代
6	新生児の諸計測とバイタルサイン測定法 （保育器内での測定を含む）	講義・演習	大石美香代
7	新生児の取り扱い、清拭・沐浴法の基礎知識・基本技術	講義・演習	西山美夏
8・9	清拭法（ドライテクニック）・沐浴法の実際	演習	西山美夏
10	継続看護と支援	講義	西山美夏
11・12	周産期の経過 事例展開 （ヘルスプロモーション型志向をとりいれたアセスメント）	講義 グループワーク	西山美夏
13・14	周産期の経過 事例展開 指導案作成 （ヘルスプロモーション型志向をとりいれたアセスメント）	グループワーク	西山美夏
15	模擬指導の発表 まとめ	グループワーク 発表	西山美夏
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論（医学書院）			
【評価方法】 客観試験 70%、課題提出・授業態度・参加状況・出席状況 30% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 精神看護学概論

区分：専門分野Ⅱ（精神看護学）

【科目担当者】 紅林 佑介		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 1 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 精神看護の目的・役割・対象について学ぶ 人間のこころの仕組みとこころの発達について学ぶ			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	精神看護の役割と機能	講義	紅林 佑介
2	精神障害と治療・看護の歴史（精神保健福祉法の変遷）	講義	紅林 佑介
3	人間のこころの構造と機能 ①こころの仕組み	講義	紅林 佑介
4	人間のこころの構造と機能 ②脳とこころのつながり	講義	紅林 佑介
5	こころの発達（発達課題に応じた）	講義	紅林 佑介
6	ストレス（こころの危機とストレス・危機理論・防衛機制）	講義	紅林 佑介
7	精神障害と家族（IP・強依存・感情表出）	講義	紅林 佑介
8	生活の場と精神保健①（人間と集団・グループ）	講義	紅林 佑介
9	生活の場と精神保健②（学校における精神保健 職場における精神保健 地域保健活動と精神保健）	講義	紅林 佑介
10	患者―看護師関係の発展過程（ペプロウ オーランド ウィーデンバック 転移感情 プロセスレコード）	講義	紅林 佑介
11	精神看護の対象と広がり（身体疾患と精神看護・コンサルテーションリエゾン看護）	講義	紅林 佑介
12	精神障害における急性期・慢性期の特徴①（うつ病）	講義	紅林 佑介
13	精神障害における急性期・慢性期の特徴②（統合失調症）	講義	紅林 佑介
14	精神障害が日常生活に及ぼす影響（精神科リハビリテーション）	講義	紅林 佑介
15	まとめ	講義	紅林 佑介
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 [1]（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 [2]（医学書院）			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 精神看護学方法論Ⅰ

区分：専門分野Ⅱ（精神看護学）

【科目担当者】		【実務経験の有無および経歴】	
豊岡 和彦		有（医師として医療現場に従事）	
神田 由香里		有（看護師として医療現場に従事）	
石本 和之		有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1		【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 前期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】			
精神疾患の特徴的な症状、診断、治療について学ぶ			
治療に伴う援助について看護の視点で考えることができる			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	精神疾患の基礎知識（精神機能、尊厳、パーソナルスペース）	講義	神田 由香里
2	こころの健康とストレス（ストレスと脳内化学物質・ストレスと心身の症状）	講義	豊岡 和彦
3	精神疾患の理解（統合失調症）	講義	豊岡 和彦
4	精神疾患の理解（気分障害）	講義	豊岡 和彦
5	精神障害の症状と疾患（神経症・ストレス関連性障害・身体表現性障害）	講義	豊岡 和彦
6	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	講義	豊岡 和彦
7	精神疾患の理解（パーソナリティー障害）	講義	豊岡 和彦
8	精神疾患の理解（器質性精神疾患・てんかん・心身症）	講義	豊岡 和彦
9	精神科における治療（急性期・回復期・リハビリテーション期・慢性期）	講義	豊岡 和彦
10	精神科治療に伴う看護援助①（精神療法・薬物療法・副作用）	講義	神田 由香里
11	精神科治療に伴う看護援助②（日常生活）	講義	神田 由香里
12	精神科治療に伴う看護援助③（精神科リハビリテーション）	講義	神田 由香里
13	看護援助に活用する技法①（プロセスレコード）	講義・演習	石本 和之
14	看護援助に活用する技法②（プロセスレコード発表）	講義・演習	石本 和之
15	まとめ	講義	石本 和之
【使用教科書】			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 [1]（医学書院）			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 [2]（医学書院）			
【評価方法】			
客観試験 90%、授業態度・出席状況 10%			
成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 精神看護学方法論Ⅱ

区分：専門分野Ⅱ（精神看護学）

【科目担当者】 神田由香里、石本 和之、 本間 貴行、笹川 雅彦		【実務経験の有無および経歴】 有（左記4名とも看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 2	【時間数】 4 5 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 こころの健康障害による対象の苦痛と援助について学ぶ 精神保健福祉法の目的とその実際が人権擁護の視点から考えることができる			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	精神看護の特徴と役割	講義	神田 由香里
2	こころに健康障がいのある対象の苦悩と看護①（統合失調症急性期・回復期）	講義	笹川 雅彦
3	こころに健康障がいのある対象の苦悩と看護②（統合失調症リハビリ期・慢性期）	講義	笹川 雅彦
4	こころに健康障がいのある対象の苦悩と看護③（気分障害）	講義	石本 和之
5	こころに健康障がいのある対象の苦悩と看護④（気分障害）	講義	石本 和之
6	こころに健康障がいのある対象の苦悩と看護⑤（神経症・ストレス）	講義	石本 和之
7	こころに健康障がいのある対象の苦悩と看護⑥（パーソナリティ障害）	講義	石本 和之
8	こころに健康障がいのある対象の苦悩と看護⑦（認知症・せん妄）	講義	神田 由香里
9	こころの健康障がいのある対象の苦悩と看護⑧（てんかん）	講義	神田 由香里
10	こころに健康障がいのある対象の苦悩と看護⑨（心身症・依存）	講義	石本 和之
11	地域における精神看護（障害者総合支援法）	講義	本間 貴行
12	地域における精神看護（訪問看護・精神科デイケア・ナイトケア・ACT）	講義	本間 貴行
13	精神保健福祉法の実際（隔離・拘束の実際）	講義・演習	本間 貴行
14	看護に活用する援助技法①看護過程の考え方	講義	笹川 雅彦
15	看護に活用する援助技法②看護過程（統合失調症・気分障害）	講義	笹川 雅彦
16	看護に活用する援助技法③（統合失調症）	講義 GW	笹川 雅彦
17	看護に活用する援助技法④（統合失調症）	講義・GW	笹川 雅彦
18	看護に活用する援助技法⑤（レクリエーション療法）	講義	本間 貴行
19	看護に活用する援助技法⑥（レクリエーション療法企画）	講義・GW	本間 貴行
20	看護に活用する援助技法⑦（レクリエーション療法準備）	講義・GW	本間 貴行
21	看護に活用する援助技法⑧（レクリエーション療法発表）	講義・GW	本間 貴行
22	精神科以外での精神看護	講義	本間 貴行
23	まとめ	講義	本間 貴行
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 [1]（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 [2]（医学書院）			
【評価方法】 客観試験 90%、授業態度・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

区分：専門分野Ⅱ（臨地実習）※「臨地実習」についてはシラバス最下段に一覧表としてまとめる。

授業科目 成人看護学実習Ⅰ

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 3年次	【開講時期】 前・後期

授業科目 成人看護学実習Ⅱ

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 3年次	【開講時期】 前・後期

授業科目 成人看護学実習Ⅲ

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 3年次	【開講時期】 前・後期

授業科目 老年看護学実習Ⅰ

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 2年次	【開講時期】 後期

授業科目 老年看護学実習Ⅱ

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 3年次	【開講時期】 前・後期

授業科目 小児看護学実習

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 3年次	【開講時期】 前・後期

授業科目 母性看護学実習

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 3年次	【開講時期】 前・後期

授業科目 精神看護学実習

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 3年次	【開講時期】 前・後期

授業科目 在宅看護論概論

区分：統合分野（在宅看護論）

【科目担当者】 武田 則子		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 在宅看護の概念を踏まえ、在宅看護の対象と看護師の役割が理解できる。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	在宅看護のめざすもの(基盤となる概念)	講義	武田則子
2	在宅看護の対象者の理解 ①年齢からみた対象者の理解 ②疾患からみた対象者の理解	講義	武田則子
3	③障害からみた対象者の理解 ④対象者の生活	講義	武田則子
4	在宅看護における病期に応じた看護	講義	武田則子
5	訪問看護に関係する法令（保健師助産師看護師法、医療法、医療保険、介護保険法、公費負担医療）	講義	武田則子
6	在宅看護における介護保険制度	講義	武田則子
7	在宅看護における訪問看護制度	講義	武田則子
8	生活の場に応じた看護の特徴と役割	講義	武田則子
9	介護保険の社会資源との連携・地域包括ケアシステム	講義	武田則子
10	在宅における他職種、他機関や社会資源との連携	講義・グループワーク	武田則子
11	在宅におけるケアマネジメントと看護の役割①	グループワーク	武田則子
12	在宅におけるケアマネジメントと看護の役割②	グループワーク	武田則子
13	在宅看護における倫理的課題とその対応	講義	武田則子
14	災害時における在宅看護	講義	武田則子
15	まとめ	講義	武田則子
【使用教科書】 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）			
【評価方法】 客観試験 90%、課題提出、出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 在宅看護論方法論Ⅰ

区分：統合分野（在宅看護論）

【科目担当者】 武田 則子 武田 裕美		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 前期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 地域で生活しながら療養する人及びその家族に必要な在宅看護の展開方法を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	療養者と家族に対する援助 ① 療養者と家族の生活	講義	武田裕美
2	療養者と家族に対する援助 ② 訪問看護の実際 ③ 介護者への援助	講義	武田裕美
3	在宅看護の対象となる主な疾患（脳卒中）	講義	武田裕美
4	在宅看護の対象となるおもな疾患と看護（認知症）	講義	武田裕美
5	在宅看護の対象となる主な疾患と看護（慢性閉塞性肺疾患）	講義	武田裕美
6	在宅看護の対象と主な疾患な疾患と看護 （多発性硬化症・進行性筋ジストロフィー）	講義	武田裕美
7	在宅看護の対象となるおもな疾患と看護 （精神障害者：統合失調症，小児在宅看護）	講義	武田裕美
8	在宅看護の対象となる主な疾患と看護（ALS）	講義	武田則子
9	訪問看護過程の事例展開に必要な基礎知識① 情報収集・アセスメント・目標の設定・援助計画・評価	講義	武田則子
10	訪問看護過程の事例展開に必要な基礎知識②	講義	武田則子
11	訪問看護過程の展開（ALS の事例を用いて）	講義 グループワーク	武田則子
12	訪問看護過程の展開（事例展開）	グループワーク	武田則子
13	訪問看護過程の展開（事例展開）	グループワーク	武田則子
14	訪問看護過程の展開（事例展開発表）	グループワーク	武田則子
15	まとめ	講義	武田則子
【使用教科書】 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院） よくわかる在宅看護（学研）			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出・出席状況 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 在宅看護論方法論Ⅱ

区分：統合分野（在宅看護論）

【科目担当者】 武田 則子 武田 裕美		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 2		【時間数】 4 5 時間	【対象学年】 2 年次
【開講時期】 後期			
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 地域で生活しながら療養する人及びその家族に必要な在宅看護技術を理解する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	在宅で療養する人の日常生活援助	講義	武田則子
2	在宅で療養する人の住環境	講義	武田則子
3	在宅で療養する人の排泄の援助	講義	武田則子
4	在宅で療養する人の排泄の援助「オムツ交換・ポータブルトイレの工夫」	演習	武田則子
5	在宅で療養する人の清潔の援助	講義	武田則子
6	在宅で療養する人の清潔の援助「自宅風呂・簡易浴槽」	演習	武田則子
7	在宅で療養する人の移動の援助	講義	武田則子
8	在宅で療養する人の移動の援助「事例に応じた援助」	演習	武田則子
9	在宅で療養する人の食生活の援助 「介護食」	講義	武田則子
10		演習	武田則子
11	在宅酸素療法	講義	武田則子
12	在宅人工呼吸療法	講義	武田則子
13	在宅看護における安全性の確保	講義	武田則子
14	在宅における服薬管理・化学療法・放射線療法	講義	武田則子
15	在宅における経管栄養法の実際	講義	武田裕美
16	在宅における中心静脈栄養法の実際	講義	武田裕美
17	褥瘡ケア管理の実際	講義	武田裕美
18	膀胱留置カテーテル・自己導尿・ストーマの管理の実際	講義	武田裕美
19	事例検討（退院患者への支援）	グループワーク	武田裕美
20	在宅における終末期看護	講義	武田裕美
21	在宅におけるコミュニケーション	講義	武田則子
22	在宅におけるコミュニケーション「文字盤・マナー」	演習	武田則子
23	まとめ		武田則子
【使用教科書】 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院） よくわかる在宅看護（学研）			
【評価方法】 客観試験 90%、課題提出・出席状況 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 臨床看護の実践

区分：統合分野（看護の統合と実践）

【科目担当者】 竹原 章子 松田 瑞葵		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 3 年次	【開講時期】 前・後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 対象の状況に合わせ、安全で根拠のある看護技術の提供ができる 複数受け持ちに対し、医療安全を意識し、優先度を考え看護実践する知識と技術の提供ができる			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1・2	事例のアセスメントと技術（領域実習開始前）	講義・演習	竹原 章子、松田 瑞葵
3	援助の実際①（領域実習開始前）	講義・演習	竹原 章子、松田 瑞葵
4・5	援助の実際②（領域実習開始前）	演習	竹原 章子、松田 瑞葵
6	状況判断（領域実習開始前）	講義・演習	竹原 章子、松田 瑞葵
7	メディカルラリー（夏季休暇前）	演習	竹原 章子、松田 瑞葵
8・9	メディカルラリー（タイムプレッシャー）	講義・演習	竹原 章子、松田 瑞葵
10・11	こんな時どうする①（統合実習前）	講義・演習	竹原 章子、松田 瑞葵
12・13	こんな時どうする②（統合実習前）	講義・演習	竹原 章子、松田 瑞葵
14・15	技術演習（実習終了後）	演習	竹原 章子、松田 瑞葵
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理（医学書院） 医療安全ワークブック（医学書院） 副読本：看護技術プラクティス（学研）			
【評価方法】 出席状況・授業態度・身だしなみ・グループワーク時の協力姿勢・提出物の内容（20%） 終講時レポート内容の総合評価（80%） 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 看護管理

区分：統合分野（看護の統合と実践）

【科目担当者】 櫻井 久美子 内藤 綾子		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 前・後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 ・看護関連法規等から看護師の役割を学び、より良い看護を提供するために看護管理の必要性和重要性を理解する。 ・災害看護を中心に危機管理を理解し、看護の役割と実践活動を学ぶ。 ・世界の人々の健康問題及び疾病発生・死亡状況など様々な現状と要因を学び、国際保健・国際看護に役立つ情報と知識を習得する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	看護管理とは 看護管理を学生が学ぶ意味 マネジメントプロセスとマネジメントサイクル	講義	内藤 綾子
2	看護ケアのマネジメント ①看護職の機能 ②安全管理の仕組み	講義	内藤 綾子
3	看護ケアのマネジメント ③チーム医療 ④日常業務のマネジメント	講義	内藤 綾子
4	看護サービスのマネジメント ①人材のマネジメント	講義	内藤 綾子
5	看護サービスのマネジメント ②物品のマネジメント ③情報のマネジメント	講義	内藤 綾子
6	看護をめぐる諸制度	講義	内藤 綾子
7	災害医療・看護の基礎知識	講義	内藤 綾子
8	災害サイクルに応じた災害看護①	講義	内藤 綾子
9	災害サイクルに応じた災害看護②	講義	内藤 綾子
10	災害看護の実際	講義	内藤 綾子
11	国際看護学の概念	講義	櫻井 久美子
12	異文化看護論	講義	櫻井 久美子
13	国際医療協力・国際看護活動	講義	櫻井 久美子
14	子どもの健康・感染症対策/リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	講義	櫻井 久美子
15	まとめ	講義	内藤 綾子
【テキスト・参考書】 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論 （医学書院） 看護者の基本的責務 （日本看護協会出版会） 災害看護 （メヂカルフレンド社）			
【評価方法】 客観試験 80%、課題提出、学習意欲（出席状況含む） 20% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

授業科目 医療安全

区分：統合分野（看護の統合と実践）

【科目担当者】 高岡 勝利 近藤 勇人	【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事） 有（看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 2 年次	【開講時期】 後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 医療安全に対する基本的知識と姿勢を学び、リスク感性を養う。 事故の視点から看護業務を理解し、臨床現場に即した実践能力を養う。			

【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	医療安全を学ぶことの意義 エラーは何故起こるのか(脳の情報処理過程から見たエラー特性)	講義	高岡勝利
2	医療事故と医療過誤 リスクマネージメントの考え方	講義	高岡勝利
3	組織的な医療安全対策 医療事故に伴う看護職の法的責任	講義	高岡勝利
4	知らねばならない“危険”の知識 診療の補助（ 注射・輸血 ）	講義	近藤 勇人
5・6	知らねばならない“危険”の知識 診療の補助（ 輸液ポンプ・シリンジポンプの扱い方） 看護業務に必要な計算（輸液量、注入速度、酸素ボンベ残量）	講義・演習	近藤 勇人
7	知らねばならない“危険”の知識 診療の補助（ 内服・経管栄養 ）	講義	近藤 勇人
8	知らねばならない“危険”の知識 診療の補助（ チューブ・カテーテル類 ）	講義	近藤 勇人
9	知らねばならない“危険”の知識 療養上の世話の事故防止（ 転倒・転落、誤嚥 ）	講義	近藤 勇人
10	リスクセンストレーニング コミュニケーション・トレーニング インシデントレポートについて	講義・演習	近藤 勇人
11・12	事故発生共通要因について 事例検討・KYT(危険予知訓練)	演習	近藤 勇人
13・14	事例検討・KYT(危険予知訓練)	演習	近藤 勇人
15	まとめ	講義	近藤 勇人

【使用教科書】 系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践②（医学書院） 医療安全ワークブック （医学書院）
【評価方法】 客観試験 90%、学習意欲（出席状況含む）10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。

授業科目 看護研究（ケーススタディ）

区分：統合分野（看護の統合と実践）

【科目担当者】 専任教員		【実務経験の有無および経歴】 有（看護師として医療現場に従事）	
【単位数】 1	【時間数】 30 時間	【対象学年】 3 年次	【開講時期】 前・後期
【科目概要（授業の進め方、到達目標）】 ・ 研究論文を読むための基礎的知識を習得する。 ・ 看護研究過程を理解し、実習で実施した看護実践の一事例について論文としてまとめ、発表する。			
【授業計画】			
回数	内容	授業形態	担当
1	看護研究の基礎知識	講義	専任教員
2	研究論文・ケーススタディの意義と進め方	講義	専任教員
3	クリティーク・文献検索・研究計画書	講義	専任教員
4	ケーススタディの実際	演習	専任教員
5	ケーススタディの実際	演習	専任教員
6	発表の意義と発表方法	講義	専任教員
7	論文作成	演習	専任教員
8	論文作成	演習	専任教員
9	論文作成	演習	専任教員
10	論文作成	演習	専任教員
11	抄録作成	演習	専任教員
12	発表原稿と資料作成	演習	専任教員
13	発表原稿と資料作成	演習	専任教員
14	発表	発表会	専任教員
15	発表	発表会	専任教員
【使用教科書】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①（医学書院） 看護学生のためのレポート書き方教室（照林社）			
【評価方法】 論文・抄録および発表についての評価と論文・抄録等の提出状況 90% 論文作成過程での取り組み姿勢・態度 10% 成績評価基準は学則に従い、A(80 点以上)・B(70 点以上)・C(60 点以上)・D(60 点未満)とする。			

区分：統合分野（臨地実習）※「臨地実習」についてはシラバス最下段に一覧表としてまとめる。

授業科目 在宅看護学実習

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 3年次	【開講時期】 前・後期

授業科目 統合実習

【科目担当者】 臨地実習指導者	【実務経験の有無および経歴】 有（各実習施設の指導者は看護師として医療現場に従事）		
【単位数】 2	【時間数】 90時間	【対象学年】 3年次	【開講時期】 後期